

次期国有林野情報管理システムの
構築に係る要件定義書作成等業務

別表2-1_要求一覧

プロジェクト名称	次期国有林野情報管理システムの 構築に係る要件定義書作成等業務
文書名称	別表2-1_要求一覧
初版作成者	林野庁
初版作成日	2023/9/15
最終更新者	林野庁
最終更新日	2026/9/4

次期国有林野情報管理システムの構築に係る要件定義書

項番	Ver.	更新日	更新者	コメント
1	1.0	2023/9/15	林野庁	初版
2	1.1	2023/10/30	林野庁	・ 要求一覧シートにおけるNFM044-1、NFM071-1の説明にデータ出力時の権限管理についての記載を追加。 ・ 複数ファイルアップロードイメージシートを追加。
3	1.2	2025/10/28	林野庁	要件定義書の更新に合わせた修正
4	1.3	2026/7/28	林野庁	対象工程を追加
5	1.4	2026/9/4	林野庁	要件定義書の更新に合わせた修正
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				

列カラム名	説明
要求No.	要求の通し番号。
要求内容	要求の内容。
理由	要求の理由。
説明	要求の説明。
分類	要求の機能分類。
現行サブシステム	現行システムのサブシステム名称。
優先度	対応の優先度。
要望の出处	要求の引用元。
事後確認票要望No.	要求の引用元であるヒアリング事後確認票要望No.。
引用課題リストNo.	要求の引用元である課題リストNo.。
備考	備考。
対象工程	A：工程2-2、B：工程2-3、Z：その他、-：対応済

事業者使用欄		【対象工程凡例】 A：工程2-2、B：工程2-3、Z：その他、-：対応済												
優先度	実装する (○,×)	対象工程	要求No.	要求内容	理由	説明	分類	現行サブシステム名	関連するサブシステム	優先度	要望の出処	事後確認票要望No.	引用課題リストNo.	備考
中	×	Z	NFM003	作業指示と報告をDB項目として紐づけ、指示した作業が完了しているか確認できるようにしたい。	現在は作業指示と報告が別々で管理されており、業務負荷が高くなっているため。	造林の実行簿と調整簿のデータなども、同様の要望が挙げられる。	データ連携	全サブ		中	-	-	-	DBの紐づけは可能。アラーム機能に近い認識である。
中	×	Z	NFM004	製品生産と収穫の情報をシステム上で紐づけてほしい。	入力した予定簿情報の記番と収穫調査復命書の記番がリンクされていないため。	製品生産において、予定簿をCSV取込として実装している。この実装に合うように収穫側でもデータを製品生産予定簿等に共有できるように作りとする。	データ連携	収穫	製品生産	中	北海道（網走西）		課題リスト T06-2-1	それぞれの業務で記番を振り分けていると予想。 現実的には予定簿を入力する際に復命書の番号を入れる想定。
対応済	×	-	NFM005	林道実行簿作成の際、経費とデータ連携が煩雑なので、簡素化して欲しい。また、データ連携が行われているか確認出来る様に欲しい。	林道番号・負担行為の記番では両方を確認する必要があるため。	例：実行簿側で負担行為番号＋Noを入力すれば連携する様になる等。	データ連携	林道		対応済	東北道野		課題リスト T04-3-2	手段2つ ・支払い情報側で連携 →影響大 ・支出負担行為決議書の事業内容でリンクさせる →支出が発生するものに関して、文字列として支出負担行為決議書に入力している。本来はその中で事業内容を持っているためそれへのリンクを持つべきである。上記を実現すればこの要求も自動的に解決される認識。
中	×	B	NFM006	契約書等のExcel出力	現在、システムからCSVを出力し、システム外のExcelにCSVを読み込ませることで契約書を作成している。システム外での作業が手間であるため、システムから直接編集可能な形式で契約書を出力してほしい	台帳番号を入力し当該情報を表示させた後、内容を確認し出力ボタンを押下することで、契約書等の様式に情報が入力された状態で出力されることを想定		貸付・使用等管理		必須			課題リスト T13-1.9～12	
対応済	×	-	NFM007	製品生産の森林施業の予定・実行も造林予定簿で管理したい。	製品生産と造林の予定・実行簿はほとんど同じ形式であるにもかかわらず、管理が別で行われており管理負荷が高いため。	生産予定・実行簿に造林予定・実行簿の項目の作業履歴の追加、資材量・生産量項目追加が必要。育林費を活用した製品生産事業は造林予定簿に追記している。 【サブシステム担当者からの補足】 ①要求の詳細について（具体的な要望と背景） →予定簿・実行簿については収穫、生産、造林それぞれ入力し、各担当者が都度checkしているのが現状。これについては、各事業の実行上今後も続ける必要があると考える。 最終的な予定面積と実行面積を対比するまたは金額の確定数字が知りたい（公表資料のバックデータとして活用したい）場合は造林の実行経路表が一番見やすい帳票となっているためそれで一括管理出来るようすれば、各事業担当のcheckも容易になると考えている。 ②経費の管理まで行いたいのか、それとも進捗管理として画面の統合のみ行いたいのか。 →経費の管理まで行いたい。事業量を予定面積とすれば対比が容易。列を設け資材量等を抽出することはシステム内部で容易に出来るかと予想。 ↑上記に対しての追加説明 造林サブシステム担当者：意見元の東北局に聞き取りを行いそのまま記載したものの。 担当所長として、 ①「最終的な予定面積」というのは未実行、不実行箇所が落ちるため、実行面積と変わらない。当初予定面積と比較しなければ予実比較の意味がない。予定面積は実行確定まで変わり続ける面積であるため別途作業を行う方がより確実かと考えるところ。 また、生産、造林の予定簿は入力項目に大きな違いがあり、造林は施業地の情報を網羅しているものである一方、生産予定簿は販売予定月・予定数量を記入するものであり、目的自体が異なる。したがって一元化することに意義はあるもの形にするには難しいと考える。 例えば、伐採系に限り、造林予定簿を入力した後に連続して生産予定簿を入力できるようにするなどになれば二度手間にならずに済むし、実現ハードルも低くなり有用性があるといえる。 ②経費について他要望にもある通り、当初経費、繰越経費、これらの合計と出力されるようにしていただきたい。 事業量を予定面積とすることは上述した通り予定面積は実行確定まで変わり続ける面積であるため意味がない。 資材量を繰り込むことについては造林担当としては特段の意見なし。生産担当が要するかなによる。 結論として、優先度は他と比較して落としていただいてかまいません。ただし有用性がある実行経路出力時に当初、繰越、合計となるようにすることに關しては優先度を高く設定していただきたいです。	予実管理	造林	対応済	東北・関東		課題リスト 複数SS-9	※サブシステム担当者に要確認 施業と経費の観点の2つにおいて、閲覧したい項目をサブシステム担当者に詳細を確認する必要がある。 （経費の管理まで行いたいのか、進捗管理として画面の統合のみを行えばよいのか。） 一旦は優先度中にし、サブシステム担当者への確認結果に基づき優先度を判定	
対応済	×	-	NFM008	実行簿作成の際に予定簿の情報を参照したい。また、負担行為決議書作成の際に実行簿の情報を参照したい。 予定簿、実行簿、負担行為決議書の作成は、1路線ごとの入力ではなく、複数の路線をまとめて入力したい。	1路線に紐づく予定簿、実行簿、負担行為決議書を一度に参照することができず、各作業で入力に必要な情報を確認できない状態により、入力の間違いが多く発生しているため。	予定簿作成して、入力した予定簿内容が見えない状態で実行簿を作成する必要があり、さらには経費整理も予定簿、実行簿が見えない状態で作業を行っている状況で、入力ミスの原因になっている。 【サブシステム担当者からの補足】 予定簿と実行簿は全く同じ入力を行っているというのではない 同じ入力項目もあれば、予定簿のみの、実行簿のみの入力項目もある。また、実行簿では予定簿で入力した内容を実行段階の数量などに修正して入力している。予定簿、実行簿を1路線ごとにも実施 対象の路線番号を入力 → 予定簿入力 → 予定簿入力画面閉じる → 予定簿で入力した路線番号を入力（入力する路線が非常に多いので入力遅れ、入力間違いが発生） → 実行簿入力（予定簿で入力した内容を覚えておき、実行段階の数量に修正するが、予定簿がみながら作業を行えない、間違いの原因） → 実行簿画面閉じる さらにこの後、経費整理作業で支出した負担行為情報を実行簿の路線と紐づける作業が発生 ここでも入力間違いが多発 よって、入力者の実際の作業を考えると予定簿入力、実行簿入力、経費整理を同時に行える（1枚の表の中で実施できるイメージ）ようにすることで入力者が、対象路線の予定から支出までを一回で入力できるようにする。入力者がどの路線の作業を現在行っており、その作業がきちんと最後の経費整理まで行えているか確認できるように作業としたい。	予実管理	林道	対応済	林道（ヒアリング）	18	-	※サブシステム担当者に要確認 支出負担行為決議書の入力に加えて、予定・実行簿でも改めての入力が必要になることが問題。 計算は必要ないが、路線名に対して支出負担行為決議書の番号をマスタとして参照する機能は必要になる。 データ再入力不可・複数路線における一括入力可能を実現する場合、優先度高	

事業者使用欄		【対象工程凡例】A：工程2-2、B：工程2-3、Z：その他、-：対応済												
優先度	実装する (○,×)	対象工程	要求No.	要求内容	理由	説明	分類	現行サブシステム名	関連するサブシステム	優先度	要望の出処	事後確認票要望No.	引用課題リストNo.	備考
中	×	Z	NFM009	業務の順番をガイドするような業務導線表示機能が欲しい。	業務の進捗状況や、前後で必要になる業務が分からないため。	-	UI導線	全サブ		中	国有林野情報管理システムの現時点の検討状況（未定稿）	-	-	
中	×	Z	NFM010	ダッシュボードを使用して分析結果を確認したい。	分析をシステム外で行い、分析結果を事業者へ共有する必要があり、業務負荷が高くなっているため。	-	分析ダッシュボード	全サブ		中	国有林野情報管理システムの現時点の検討状況（未定稿）	-	-	ダッシュボードをシステム上で作成すると難しいが、データ出力をするという意味では高。 個人ダッシュボード：中 →個人にパーソナライズされたダッシュボード（個人のタスク管理など） 全体ダッシュボード：高 →全体のデータを出力して視覚化するダッシュボード（今年度のあと8か月で収束を2000やらないといけないなど） 職員によって出力できるデータなど権限周りを気にする必要がある。 BIツールを用いてダッシュボードを作成
必須	×	Z	NFM011	調査簿等情報（林況、法指定等、地位・地況、機能等、土地情報）入力の際に、「層構造」と「径級区分」は①「林種の細分」、②「林相」及び③「ha材積」により決定されるので、①～③を入力することで自動的に判別し、適切な「層構造」、「径級区分」を表示してほしい。	手動で値を入力しており、業務負荷が高くなっているため。	関東局では、調査簿情報を入力するにあたり、森林の状態によりどの区分とするかの判別をマニュアルで決めており、判別マニュアルに沿って各項目の情報を手入力していることからこれをシステム化したいという要望である。システム化にあたっては、各局の判別の方法を踏まえた検討が必要。	自動計算	森林情報管理		高	関東他	-	課題リストT01-3-18	-
必須	×	Z	NFM012	調査簿等情報（林況、法指定等、地位・地況、機能等、土地情報）入力の際に、「立木度」と「樹冠疎密度」の表示には相関関係があるので、「立木度」に合わせて自動表示できないか。	手動で値を入力しており、業務負荷が高くなっているため。	関東局では、調査簿情報を入力するにあたり、森林の状態によりどの区分とするかの判別をマニュアルで決めており、判別マニュアルに沿って各項目の情報を手入力していることからこれをシステム化したいという要望である。システム化にあたっては、各局の判別の方法を踏まえた検討が必要。	自動計算	森林情報管理		高	関東他	-	課題リストT01-3-18	-
必須	×	Z	NFM013	調査簿等情報（林況、法指定等、地位・地況、機能等、土地情報）入力の際に、「木材生産機能の区分」と「将来樹種の地位」には相関関係があるので、「地位」に合わせて区分を自動表示できないか。	手動で値を入力しており、業務負荷が高くなっているため。	関東局では、調査簿情報を入力するにあたり、森林の状態によりどの区分とするかの判別をマニュアルで決めており、判別マニュアルに沿って各項目の情報を手入力していることからこれをシステム化したいという要望である。システム化にあたっては、各局の判別の方法を踏まえた検討が必要。	自動計算	森林情報管理		高	関東他	-	課題リストT01-3-18	-
対応済	×	-	NFM014	樹木料評定の計算をシステムの上のみで完結してほしい。	現在は「刷新システムでデータ作成→csvで出力→Excelで計算→csvで取込→刷新システムで帳票作成」という手順が生じており、事務効率が悪いため。	計算は「AE4BM020_樹木料評定情報入力.xlsm」のマクロで計算を行っている	自動計算	樹木採取権		対応済	関東（局資源活用課）	-	課題リストT08-10	-

事業者使用欄		【対象工程凡例】A：工程2-2、B：工程2-3、Z：その他、-：対応済												
優先度	実装する (○,×)	対象工程	要求No.	要求内容	理由	説明	分類	現行サブシステム名	関連するサブシステム	優先度	要望の出処	事後確認票要望No.	引用課題リストNo.	備考
高	×	B	NFM015	貸付料計算フローの効率化	現在は、通常と電力協定で台帳番号を別々にとり貸付料計算を行っているため、業務負荷が高くなっている。	通常の貸付料計算を行う台帳と電力協定に基づいて貸付料計算を行う台帳について、台帳番号を統一して算定番号を分けること等により、通常の貸付料と電力協定に基づく貸付料の計算を一度に行いたい。		貸付・使用等管理		必須			課題リストT13-3-1	
高	×	B	NFM018	ADAMSⅡとAPI通信を行い、ADAMSⅡの債務者情報をシステム上で使用できるようにしたい。	ADAMSⅡで債務者番号が数年使用されていないと削除され、番号が再利用されることからADAMSⅡの債務者番号と刷新の債務者情報一覧を比較し、整理する必要がある。その際、刷新の債務者情報一覧をCSV形式で出力できると事務効率上がる。	ADAMSⅡの債権者番号は2年で抹消されるが、再利用はされない。 ADAMSⅡの債務者番号の形式は「令05-123456」となる。一方現行の刷新システムでは「123456」だけで登録している。 このため、再利用されているようにみえるのであって、正しいデータ形式で同期すれば本件は問題とならない。	外部連携	全サブ	高	関東他		課題リスト共通-2-3		
中	×	Z	NFM019	文書管理システムと連携したい。	1つの契約者と複数回の決裁やり取りが発生し、業務負荷が高くなっているため。(製品生産での事業者に対して伐採分の部分支払い、樹木採取権の運用協定・実施契約など)	【他要求との関連】 供覧をシン・システム側のフロー管理で対応してほしい（承認行為or要文書管理）	外部連携	全サブ		中	-		課題リスト共通-2-1	
中	×	B	NFM020	REPSへデータ連携したい。	支出・収入の管理に関する業務負荷が高くなっているため。		外部連携	全サブ		中	-		課題リスト共通-2-1	
低	×	Z	NFM021	年度末に国有林野情報管理システムから国有林GISへ（テキストファイルで）データ提供するとともに、毎月、差分データを更新・提供してほしい。	現在はGISとの定期的なデータ連携が行われておらず、利便性が低くなっているため。		GIS連携	森林情報管理		低	本庁（経企課事務管理班）		課題リスト共通-2-4	
中	○	A	NFM022	添付ファイル管理機能が欲しい。	復命書添付書類や契約書などに含まれる図面・写真・関連資料などを参照できるようにするため。	同様の要求が林道台帳図面や設計図、沿革簿、獣害対策における防護柵、貸付申請書類等にも存在する。	添付ファイル機能	全サブ		必須	国有林野情報管理システムの現時点の検討状況（未定稿）		-	R6年度 次期国有林野情報管理システム設計・構築及びクラウドサービス提供業務において、製品生産、製品販売、立木販売、林道、造林、樹木採取権サブについては対応済み（以下、※1）
対応済	×	-	NFM023	林道台帳の各年度の新設・改良などのカテゴリに、実施した工事などの設計図面、数量調査など工事関係情報電子データを添付ファイルとして紐づけたい。	現在、詳細な情報は紙ベースで記録しており、過去の工事の詳細な情報を確認する際は紙での記録を辿っており業務負荷が高くなっているため。	台帳の中に林道の新設・改良などのカテゴリは入力されているが、工事の内訳や位置図などの詳細な情報が記録されていないのでどこで何をしたらかを把握できるようにしたい。	添付ファイル機能	林道		対応済	林道（ヒアリング）	16	-	
対応済	×	-	NFM024	林道台帳に事業完了後の工事関係情報電子データ（PDF、エクセルなど）を添付できるように改善したい。	フローでは設計書の管理（積算）がシステムに含まれているが（現状は刷新システムで行うことはできない）、積算は積算システムを使用しているため、刷新システムにより管理できるようにする必要はない。	設計書自体をシステムで管理する必要性は薄い。	添付ファイル機能	林道		対応済	-	-	-	
低	×	Z	NFM025	図面の電子化に伴い、林況タブ「林道距離」について、自動で算出されるようにしてほしい。	新たな林道が開設された際、その都度計算することに負荷がかかっているため。		自動計算	森林情報管理		低	関東		課題リストT01-3-22	

事業者使用欄		【対象工程凡例】A：工程2-2、B：工程2-3、Z：その他、-：対応済												
優先度	実装する (○,×)	対象工程	要求No.	要求内容	理由	説明	分類	現行サブシステム名	関連するサブシステム	優先度	要望の出処	事後確認票要望No.	引用課題リストNo.	備考
高	×	Z	NFM026	契約など、特定の期限までに必要なタスクが完了しているか確認し、期限が迫ったときにアラームで通知する機能が欲しい。	Excelで管理しているため人為的ミスが発生する可能性があるが、契約の履行に関わる内容のため管理の重要度が高く、業務への負荷が高い	(立木販売の搬出の期限(3年)、システム販売の協定の期限、貸付・使用等管理の契約延長の意思確認、造林の跡地検査の未完了起番の検知、樹木採取権の伐採状況) 【他要求との関連】 造林調査簿で未完了記番が存在すると警告が出るような機能追加してほしい。 過去の跡地検査が終わったか不明箇所があり、何年も前に売り払ったところがデータとして何件も残っている(19年度から) ※入力担当者が「完了」入力を出来ていないため、発生している。	アラーム機能	全サブ		高	国有林野情報管理システムの現時点の検討状況(未定稿)	-	-	-
低	×	Z	NFM027	ワークフロー管理機能が欲しい。	工程ごとに作業者が異なる、あるいは上長等に承認を求める必要がある場合に、PDFや紙に出力しシステム外での確認が必要であり、業務負荷が高くなっているため。	-	ワークフロー	全サブ		低	国有林野情報管理システムの現時点の検討状況(未定稿)	-	-	-
対応済	×	-	NFM028	Web標準に準拠したシステムとし、Edgeから利用できるようにしてほしい。	他システムではEdgeを用いており、現行のChromeのみのサポートだとシステムを利用する際にブラウザを切り替える手間が大きいため。	基本的にEdgeの利用が想定されるため、Edgeを使用することを想定としたシステムとする。 Web標準に準拠して設計開発を進め、テスト(動作確認等)の際はEdgeを用いる。 職員が利用するブラウザはfor buissinessである。	インフラ整備	全サブ		対応済	関東(埼玉)	-	課題リスト 共通-6-9	-
高	×	Z	NFM029	帳票出力機能を整備してほしい。	使用したいが業務の変遷により帳票の形式が変更になったため使用できずにいる帳票が多い。	【他要求との関連】 造林実行総括表の当年度、繰越、合計別と主伐、間伐ごとの帳票出力をできるようにしてほしい。 当年度、繰越、合計別は局提出のため、別途EXCELで作成し、提出していることの効率化。 -- (林班沿革簿出力)林班ごとで出力できるようになるか、一括でダウンロードできるようにしてほしい。 --	データ抽出	全サブ		高	国有林野情報管理システムの現時点の検討状況(未定稿)	-	-	※1
高	×	Z	NFM030	抽出可能なデータをCSVやExcel形式等でダウンロードできるようにしたい。	データをCSVやExcelに出力できることで、手元でデータを自由に触れることにより汎用性が高くなるため。	利用者の権限に応じて、原則システムに入力されているすべてのデータをCSVやExcel形式でダウンロードできるようにする。 複数テーブルを跨いで出力したい要望(復命書と野帳など)はzipで複数ファイルをまとめてダウンロードできるようにする。 利用者の権限は基本的に現行踏襲。サブシステム＝業務の範囲で権限割り当てされている。 Ex.経営係長＝森林情報管理＋収穫	データ抽出	全サブ		高	国有林野情報管理システムの現時点の検討状況(未定稿)	-	-	※1
低	×	Z	NFM031	森林情報管理メニューにおいて、新たに以下の書類等を自動作成できるようにしてほしい。(北海道) ・地域別の森林計画書 ・地管計画書 ・施策実施計画書 ・官行造林施策計画書 ・保統計算書(地域別) ・年平均伐採量一覧表	現在手動で作成しており、手間がかかっているため。	-	データ抽出	森林情報管理		低	北海道(局計画課)	-	課題リスト T01-1-1	こちらは計画自体を作成するときにシステム上で行うという要求。(システムの中に計画閲覧システムというものが別途必要になる)
必須	○	A	NFM032	事業者を介さずにユーザ側でデータを一括修正したい。	調査簿や伐道簿等の各DBの修正が容易ではないため。	その他、野帳情報取込、収穫予定簿、造林実行簿、生産予定簿などが該当する。 一括修正方法についての詳細はシート「一括修正画面イメージ」参照。	一括操作	森林情報管理	収穫	必須	北海道局	-	課題リスト T01-1-2,共通-9-1	-
高	×	Z	NFM033	システムに登録済みのデータを複数の画面から参照できるようにし、同じ内容を何度も入力する必要をなくしてほしい。	入力ミスを軽減するため、同じ入力を複数行う手間を軽減するため。	例えば、小班が一意に定まるキーを選択すれば小班情報を参照できる。 データモデルの設計を正しく行うことで解消される想定である。 収穫調査、支出管理、収入管理	データの一貫性	全サブ		高	-	-	-	※1

事業者使用欄		【対象工程凡例】 A：工程2-2、B：工程2-3、Z：その他、-：対応済												
優先度	実装する (○,×)	対象工程	要求No.	要求内容	理由	説明	分類	現行サブシステム名	関連するサブシステム	優先度	要望の出処	事後確認票要望No.	引用課題リストNo.	備考
対応済	×	-	NFM034	復命書番号を入れて、復命書を指定することで内訳書が出力されるようなシステムであれば使用したい。 (伐採の仕方等は手入力ができるようにしたい)	内訳書は収獲復命書を基に作成されるが、現在は復命書の内容を含む内訳書を1から作成しており、業務負荷が高くなっているため。	契約書に紐づく形で内訳書があり、内訳書は収獲調査復命書から作成されるため、復命書と内訳書の数は同じであり、内訳書はExcelにて管理を行っている。 ○サブシステム担当者様からの補足 (復命書との連携が主目的であるためNFM004と統合可) 内訳書とは、事業者が契約した林小班の内訳をまとめたものである。 こちらは、製品生産の契約時(?)に収獲調査復命書の情報を基に作成される。 なぜなら、林小班の情報として、システム上では代表林小班、契約書上では合計面積の情報しか持っておらず、 契約内すべての林小班情報をまとめたものが存在しないため。 上記の理由から林小班情報をまとめた内訳書が作成されている。 林小班キーから面積と樹種と資材（本数、材積）を引用したい課題 ただ、Excelで内訳書を作成しており、システム上で作成できるメリットはあまりない認識のため、Excelで作成しやすいように復命書番号を基に紐づく小班情報を抽出できれば良い。	データの一貫性	製品生産	対応済	製品生産 (ヒアリング)	22	-	-	
高	○	A	NFM035	分収育林契約の一部解除や持分買受など、契約内容に変更があった際、登録方法を簡単にしてほしい、契約口数を直したら契約者数も自動的に反映されるようにしてほしい。	一部解除の面積や契約者数のデータが連携しておらず連動した変更ができない、変更後の契約者数が表示されない、買受や権利放棄の際の分収金情報の登録が複雑などにより、業務負荷が高くなっている。	契約内容に変更があった場合の情報更新にあたり、契約単位で各種変更を行えるようにし、関連するデータは自動で更新され、それを確認できるとよい。	データの一貫性	分収育林		必須	関東（局）		課題リスト - T14-6-2.9-2.14	-
対応済	×	-	NFM036	権利設定から運用協定までの入力をシステム上で行いたい。	通達上は、権利設定から運用協定まで同時並行で行う必要があり、所定の様式に基づいた単純な入力作業の業務負荷が高くなっているため。	○サブシステム担当者様からの補足 東北局のいう「権利設定から運用協定まで同時並行で行う」作業の中に現状刷新システムへの入力事項はほとんどないところです。 このため、おそらく現状のシステムの操作改善要望というよりは、新たな様式を追加してほしいという要望か、と理解しました。 公示や本庁への報告、決定した樹木採取権者への通知等多くの文書を同日付けで作成（送付）する必要があり、現状はワードやエクセルの様式に打ち込んで作成してもらっているので、そこを手間と感じているのかと思います。 システム上に必要情報を入力したら、当該様式を全て作成してくれて、かつ本庁等への送付をEASY等ほかのシステムと連携してスムーズに行えるようになると便利かと思います。 ただ、このステップは約10年1期とする樹木採取権制度の中で1回きりで、毎年何回も発生するような業務ではありません。 本庁担当者として優先順位はそこまで高くないかと思っておりますが、ここは局に聞く温度差があるかもしれません。 東北局から提起された方のお名前とありますが、当方では把握しておりません。 さらなる情報が必要であれば局実活課へ問合せください。	データ複製	樹木採取権	対応済	東北（資源）		課題リスト - T08-4	-	
対応済	×	-	NFM037	評定時に何度も同じ情報を入力する必要のない画面にしてほしい。	市況率や産地増減率などの補正率について、樹種毎や評定毎に同じような補正率を何度も入力する必要があり、業務負荷が高い。 (スギでも3m 34cm以上と4m 34cmでそれぞれに入力を行わないといけない。3mから4mのスギの単価を機械的に計算することはできない。	収獲調査復命書的小班ごとの入力、立木販売の市況率・産地増減率などの補正率。	データ複製	製品販売	対応済	製品販売 (ヒアリング)	21	-	-	

事業者使用欄		【対象工程凡例】A：工程2-2、B：工程2-3、Z：その他、-：対応済												
優先度	実装する (○,×)	対象工程	要求No.	要求内容	理由	説明	分類	現行サブシステム名	関連するサブシステム	優先度	要望の出処	事後確認票要望No.	引用課題リストNo.	備考
高	○	A	NFM038	復命書入力時に立木調査結果をcsvファイルにより取り込んでいるが、類似林分（襲用）の調査結果を活用する際は、活用先の小班を選択することで、ファイル取り込み作業や一部の入力作業等が省略できるようにしたい。（復命書情報入力の調査方法欄の選択肢として、「類似林分（襲用）」（調査方法名）を追加することも必要） 同じ小班内で複数の伐区や樹種毎に復命書を作成する場合は、それぞれ同じ小班情報を入力する必要があり、異なる入力値だけを入力するようにしたい。	同じ小班の中に複数の伐区が存在している場合、伐区ごとに調査をする必要があるためそれぞれに同じ情報の入力を行わなければならない。	森林の状況が類似した複数の小班については、1つの小班を調査し、その他は調査した小班の野帳データ等を活用することができる。（「襲用」という。）	データ複製	収穫		必須	収穫（ヒアリング）	6	-	-
対応済	×	-	NFM039	市況率や産地増減率などの補正率について、評定時に何度も同じ情報を入力する必要があり、流用できるようにしたい。	樹種毎や評定毎に同じような補正率を何度も入力する必要があり、業務負荷が高い。 （スギでも3m 34cm以上と4m 34cmでそれぞれに入力を行わないといけない。3mから4mのスギの単価を機械的に計算することはできない。） 毎月、市況率のマスタ登録があるが入力手間が多く業務負荷が高い。	-	データ複製	立木販売		対応済	立木販売（ヒアリング）	21	-	-
対応済	×	-	NFM040	立木販売SSのマスタメンテナンスの低質材基準価格表修正のメニューで、素材同様、複写処理をできるようにしていただきたい。	業務上活用したい機能がなく、業務負荷が高くなっているため。	複写処理できるための機能について検討する。 材質と価格のリレーションを見直し、複数回入力しなくてよいにする。 また、毎月、樹材種ごとに市況率のマスタ登録があるが、樹材種毎に入力ページを呼び出して入力するため、一括で入力できるようにしたい。 ○複写処理とは 既に登録済みの帳票等の入力データを引用して入力画面の初期値として表示させる。	データ複製	立木販売		対応済	関東（局資源活用課）	-	課題リストT05-2-2	-
高	×	Z	NFM042	特定時点の情報を抜き出すことは必須である。過去にさかのぼって樹立時DBを出力できるとありがたい。 特定時点の情報は更新履歴を残すとともに、更新の日付と更新の契機をセットで管理したい。	現行システムでは更新すると最新の情報しか残らず、更新前のデータが失われる。 特定時点でのデータを取得するには人手でデータの整合性を取る必要があり、このことが事業統計書の作成時の負荷を大きくしているため。	森林情報管理に限らず分収育林などその他の業務にもかかわる内容。 また、前回時点だけではなく、全世代分の情報を取得したい。 森林情報管理に関してはファイルサイズが1GB程度でかつ5年おきなのですべての世代を保持しておく。	DB設計	全サブ		高	森林情報管理（ヒアリング）	1	-	-
中	×	Z	NFM043	直営委託別の調査方法（毎木、標準地、襲用など）ごとの面積や、委託契約金額なども含めた集計をできるようにしてほしい。	委託金額や調査方法別調査面積を局署からデータ提供してもらってExcel管理をしている状況であり、局署の業務負荷が高いため。	直ようか委託契約かの判別は現行システムでも判別することができる。収穫システムにおいて入力する調査方法に「襲用」が登録されていない。	DB設計	収穫	製品販売	中	収穫（ヒアリング）	4	-	認識組閣ない

事業者使用欄		【対象工程凡例】A：工程2-2、B：工程2-3、Z：その他、-：対応済												
優先度	実装する (○,×)	対象工程	要求No.	要求内容	理由	説明	分類	現行サブ システム名	関連するサ ブシステム	優先度	要望の出処	事後確認 票要望No.	引用課題リ ストNo.	備考
対応済	×	-	NFM044	完了区分が翌債となる場合の、翌年度予定簿への反映をしてほしい。	翌債となるものは本年度と翌年度で同じ内容を2回入力する必要があり、業務負荷が高くなっているため。	翌債とは契約が発生したが翌年に繰り越しになるもの、なぜ翌年に繰り越しになるのに本年度登録が必要であるかという点、前金等で経費にかかる対応が発生して、経費との整合性を合わせるため。 【サブシステム担当者からの補足】 予定簿作成時に前年度に翌債として登録した実行簿情報を複写できる機能の実装を要望。	機能修正	林道		対応済	東北		課題リスト T04-3-1	-
低	×	Z	NFM045	計画策定において(頻繁に変わるものではない)森林調査簿上のデータ(林齢、法指定など)を踏まえて伐採候補の樹種などを提案するような機能を追加したい。	計画調整などが電話・メールでの連絡が密に行われ、作業負担が大きいため。	現状、計画業務においてシステムを活用することがない。(電話・メールの調整はシステム化が難しい部分ではあるが、半年ごとの伐採量が同じになるようなアルゴリズムを形成するなどとは可能なため作業効率化を図りたい。)一貫したGISデータを局・署等がシステム内で確認できることを実現した上で、この要望が実現できれば各局・署で計画の情報を確認・修正などする手間が減るのではないか。	システム化	森林情報管理		低	森林情報管理(ヒアリング)	3	-	-
対応済	×	-	NFM046	造林において、特定母樹の管理をシステム化範囲に含めてほしい。	業務の変遷により、実際の業務内容とシステムに差異が出ており、特定母樹がシステムの管理範囲に含まれていない。	現状、「花粉症対策」有・無を入力できるようになっているが、これを拡充し、入力範囲を広げるか、別途入力欄を設けるかしていただきたい。	システム化	造林		対応済	造林(ヒアリング)	10	-	-
対応済	×	-	NFM047	造林の獣害対策についてシステム化してほしい。 「シカ柵(ななめ)」、「シカ柵(金網)」、「シカ柵(ステンレス)」、「単木保護(ネット)」、「「単木保護(その他)」 などある程度絞って入力できると利便性がよいと思う。	シカ柵の素材や数量などを管理する台帳の管理負荷が高い。	獣害対策ごとに管理すべき項目が異なるため、一括してシステム化することは難しい可能性が高い。	システム化	造林		対応済	造林(ヒアリング)	11	-	-
対応済	×	-	NFM048	造林予定簿等の入力項目を増やしてほしい(同事業で主伐と間伐に分かれる作業種別(誘導伐等)、植付樹種別(コンテナ、普通苗別)、苗木樹種・本数(特定母樹、エリートツリーかどうか)、獣害対策(忌避剤、数量等、シカ捕獲、シカ柵点検等については、「類：保育」、「種：鳥獣被害対策」として入力しているが、細かな内容が入力できない)など)。	必要な入力項目が足りず、業務に支障が出ているため。	上記要求を反映した際に実行総括帳票にも影響が出るため、出力した際の帳票についても検討が必要	システム化	造林		対応済	東北		課題リスト T03-1-1	-
対応済	×	-	NFM049	経費整理表の「類」「種」を振り分ける作業時に、項目を追加してほしい。「類」に「鳥獣被害対策」、「種」に「忌避剤」「防護柵」をそれぞれ追加してほしい。	項目が不足していることで、忌避剤や防護柵に使用した予算が管理しづらくなっているため。		システム化	造林		対応済	中部(飛騨)		課題リスト 複数SS-6	-

事業者使用欄		【対象工程凡例】A：工程2-2、B：工程2-3、Z：その他、-：対応済												
優先度	実装する (○,×)	対象工程	要求No.	要求内容	理由	説明	分類	現行サブシステム名	関連するサブシステム	優先度	要望の出処	事後確認票要望No.	引用課題リストNo.	備考
対応済	×	-	NFM051	立木販売予定価格評定のC経費控除計算において、算出した予定価格が単価1000円以上の場合は「算出金額」を、単価1000円未満の場合は「単価1000円×材積」の額が計算される処理がなされるが、そのような処理をする場合としない場合とを選択できるようにしてほしい。	運用改定によりシステムの改修を行ったが、改修によって一部の作業に支障が生じているため。	令和4年3月に、皆伐箇所の立木販売予定価格については、積算結果が単価1000円以上となる場合はそのままの額、単価1000円未満となる場合は単価1000円になるよう算出し直した額とするよう運用改正を行った。これに合わせてシステム改修を行ったが、間伐を含む全ての立木販売でこの処理がなされるため、処理をするかしないかの選択ができるよう改修が必要であるため。	システム化	立木販売		対応済	立木販売 (ヒアリング)	45	-	※サブシステム担当者に要確認 発生頻度によって優先度中と高を切り分ける。 参考 1. 皆伐の場合の算出金額が1 0 0 0 円を下回った際に、1 0 0 0 円にする通知 →立木販売予定価格評定公式の運用について」の第4の1の（2） 2. 署長権限で算出価格を変更できる規定 →立木販売は別添の「産物売払手続」の第3条くらいです。素材販売は評定要領
対応済	×	-	NFM052	通常野帳で入力した様についても、そのまま概算販売出来るよう改良し、 て欲しい。また、概算販売についても、委託販売やシステム販売のように価格評定の際に選択出来るようにしたい。	通常野帳で入力した様を概算販売に回す場合、野帳を入力し直し、様番号付け直す手間がある。普通野帳で入力、生産完了している場合は、生産報告書の数字も変わり回覧し直す手間があるため。	当初から概算販売で売るつもりで野帳入力しているなら良い。	システム化	製品販売		対応済	東北	-	課題リスト T07-9-1	-
対応済	×	-	NFM053	様の状態を管理できるようにしたい。	様が売れ残ったら物品として資産になるなどを管理するために実績の管理を行っている。 野帳が検査済みか検査していないかを管理する業務負荷が高い。	現状Excelにて管理している。	システム化	製品販売		対応済	製品販売 (ヒアリング)	26	-	ステータスの管理のみであれば高であるが、現在Excelで管理している情報を新たに管理するとするとDB設計が必要になるため優先度中。
中	×	B	NFM055	入力事務のシステム化	貸し付けている林小班の情報は申請書類の内容を台帳に入力して管理しており、管理負荷が大きい ため。	申請形式について、紙媒体/電子媒体での提出があるため、貸付台帳へのデータ入力事務をシステム化し、業務負荷を軽減したい		貸付・使用 等管理		中		38	-	-
中	×	B	NFM056	複数林小班の入力負荷軽減	1つの契約内において、事業者に貸し出している小班数が多くなる場合もあり、その情報を1つ1つ入力していくのは入力負荷が高いため。	貸付台帳において、貸付を行っている林小班を記載するが、記載する林小班の数が多くなっても入力負荷が大きくならないようにしてほしい		貸付・使用 等管理		中		40	-	-
高	×	B	NFM057	基本算定への対応	算定方法が統一されていないことで一連の業務の流れが分かりにくいものになっているため。 また、今後利用頻度が高まるに伴ってシステム外で入力する作業の負荷が大きくなることが懸念されるため。	国有林野の貸付料算定方法については、長官通知に定めがあり、「基本算定」と「特例算定」という2種類の算定方法がある。この点、H25以前の特別会計時代は「特例算定」が原則だったが、H25の一般会計化の際、財務省の算定方法を基本とすることし、長官通知を改正し、「基本算定」を原則とした。実務上は、特別会計時代からの更新契約が多いこと等から現時点では「特例算定」を使用している契約がほとんどであるものの、今後の契約では「基本算定」が増えていく可能性がある。		貸付・使用 等管理		必須	貸付・使用 等管理（ヒアリング）	39	-	

事業者使用欄		【対象工程凡例】A：工程2-2、B：工程2-3、Z：その他、-：対応済												
優先度	実装する (○,×)	対象工程	要求No.	要求内容	理由	説明	分類	現行サブシステム名	関連するサブシステム	優先度	要望の出処	事後確認票要望No.	引用課題リストNo.	備考
高	×	B	NFM058	市町村交付金のシステム化	計算用の外部システムを維持するコストが高く、類似した情報を持っている国有林野情報管理システム内で算出できるようにしてコスト効率化を図りたいため。	国有林を持っている市町村に交付金を支払っており、局署が市町村ごとに刷新システム外で交付金の計算を行っているが、調査簿のデータを使用するので、今回のシステムに機能として導入したい。別途要件定義書作成済み。		貸付・使用等管理		必須		42	-	
中	×	Z	NFM059	システム上でオーナーへの発着はがきや文書の作成ができたりすると便利。	はがきの作成に必要な情報を刷新システムに入力→収集しており、業務負荷が高くなっている。	はがきの枚数も多い。（1つの分収育林契約で約100人のオーナーがいるため） 現在は刷新システムから、契約者情報をCSV出力し、excelで通知文書を作成していることが多い（局によっては、はじめからexcelでしか管理していないところもある）。 csvを出力しない分、一手間減らせるだけでなく、最も最新の情報で通知文書を作成できるので送付ミスを減らすことができる。	システム化	分収育林		中	分収育林（ヒアリング）	43	-	-
中低	×	Z	NFM060	分収造林に関して、契約の仕方（森林管理署を経由する）や樹木を植えて育てる主体が契約相手方（個人や法人等）であること以外は、分収育林と大まかに共通なので、システムの改修に伴い、分収造林も組み込んで良いのではないかということ。	分収造林は契約の窓口が署であることを除き、大まかな流れは分収育林と同じだが、現在システム化・共通化されていないため。 また、分収造林台帳については、紙で管理している状況であり、訂正の際に局署の業務負荷が高いため。	造林なので契約のタイミングはさら地のタイミング。契約満期からがほぼ共通の手続き（意向確認～立木販売等）ではあるものの、契約初期の流れが異なるため、共通化するのは難しい。	システム化	分収育林 分収造林		中低	分収育林（ヒアリング） 分収造林	44	-	-
対応済	×	-	NFM061	システム上で契約書を作成したい。	契約書をシステム外で作成しており、業務負荷が高くなっているため。	現在は一太郎で作成している。	システム化	立木販売		対応済	北海道日高南	-	課題リストT05-5-4	-
低	×	Z	NFM062	選定結果・変更結果公示を林野HPに自動的に反映できるようにしたい。次善としてPDFで選定結果・公示内容の取り出しをできるようにしてほしい。	選定結果・変更結果公示をシステム上に登録後、林野HPにも掲載する必要があり、作業負荷が高くなっているため。	-	システム化	樹木採取権		低	北海道（資源）	-	課題リストT08-3	バックログ的に要求自体は優先度低として管理する。データ出力を行うことでの解決が図れる。
高	×	B	NFM063	経費科目の階層をADAMSIIに合わせるようにしてほしい。	刷新システムの示達について、ADAMSIIの経費科目階層が6階層なのに対して、刷新システムでは3階層しかない。このため、略科目を使ってマッピングをしている。 データの直接比較が困難となり、集計ミスの原因ともなっている。 またマッピングが運用事業者任せとなっている問題もある。	-	システム化	歳出予算管理・支出管理・収入管理		高	本庁（経企課事務管理班）			
中	○	A	NFM064	国庫帰属森林調査簿入力	新たに追加された国庫帰属森林について、森林調査簿情報入力を可能としたい。各計画に必要な各種帳票へ反映させたい。	現行システムでは、林班を登録する際は、国有林野と官行造林のみを想定している。政策の変化に伴う新たな国有林の形態である国庫帰属森林をシステムにおいて管理するとともに、今後の政策の変化を想定した柔軟な仕組みを実装する。	システム化	森林情報管理		必須	本庁（経企課事務管理班）			
中	○	A	NFM065	復命書項目精査	復命書の項目のうち不要と思われる項目を整理したい。また、この整理と併せて収穫調査後に、年度別調査簿の変更された場合、収穫予定簿で参照するデータを復命書からではなく、年度別調査簿を参照するようにしたい。	不要項目は、例えば都道府県が必要か、必要最低限の復命事項に絞って復命書のレイアウトの見直しを行う。 また、レイアウトはできるだけ簡素化すると共に、決裁欄の自由度を上げ、搬出関係や摘要の自由記入欄についても統合などの検討を行う。 全内残が不要となる可能性がある。また、列状間伐における1伐3残など、伐採方法に対する伐採仕様を復命書で管理することで、林班沿革簿への反映及び、次回伐採における伐採方法、伐採仕様の検討に活用したい。	システム化	収穫	森林情報管理	必須	本庁（経企課事務管理班）			

事業者使用欄		【対象工程凡例】A：工程2-2、B：工程2-3、Z：その他、-：対応済												
優先度	実装する (○,×)	対象工程	要求No.	要求内容	理由	説明	分類	実行サブシステム名	関連するサブシステム	優先度	要望の出処	事後確認 票要望No.	引用課題リ スト No.	備考
高	○	A	NFM066	伐造簿と収穫予定箇所の整合性管理	予定簿を収穫復命書から転載する場合に、伐造簿に記載されていない収穫復命書があれば、チェックし、計画に沿った収穫予定簿を作成したい。	収穫予定簿は、現在、伐造簿に記載の収穫予定箇所を基に①収穫復命書から転記、②直接入力する。予定簿登録時に伐造簿に登録があるかチェックさせたい。 計画外伐採など、伐造簿に指定のない場合もあるので、実行簿（払出情報登録）時含めて確認アラート程度とする。	システム化	収穫	森林情報管理	必須	本庁（経企課事務管理班）			
必須	○	A	NFM067	払出情報登録一括入力	工程2-1で対応している他サブシステムで予定簿等の一括入力を実装したため、それらを追従する形で収穫においても一括入力を実装したい。	現在は、払出情報登録画面で、復命書記載事項のうち払出情報登録に必要な項目が表示され、復命書単位で登録している。業務上、払出情報を複数まとめて登録するケースが存在するため。	システム化	収穫		必須	本庁（経企課事務管理班）			
高	○	A	NFM068	立木補償料等、システム上の評定を経ない実行簿直接入力フロー及び画面	立木補償料は、立木調査野帳があるにも関わらず立木価格評定を行わないため、契約明細を入力するタイミングで実行簿を直接入力している。立木調査野帳を実行簿に紐づけ管理したいから。	立木補償料は、業務G（経営係）で計算せずに、総務G（管理係）で補償料として計算した上で、これを契約明細の金額として直接入力している。この際、その補償料に紐づく実行結果として実行簿を直接入力しているが、本来であれば、立木調査野帳から、立木補償料として評定され、払出によって実行簿データが生成されるべきであり、払出による実行簿の計上は、一般的（補償料でない）な立版の場合の流れとなる。 収穫実行簿直接入力の入力を簡素化し、価格評定行わずに赤い入力を実施する際の手続きと画面遷移の見直しする。	システム化	収穫	立木販売	必須	本庁（経企課事務管理班）			
高	×	Z	NFM069	各サブシステム間のデータ連携	造林において小班実行管理が行う際に、森林情報管理から林小班の情報を引き当てる。小班分割時の予定簿への反映、作成した収穫予定簿と立木販売、製品生産等へのデータに引継ぎなど	次年度に作成予定のサブシステムへのリンクが、本年度実装のサブシステムに存在する。（#2933） 例）造林で小班実行管理という森林情報管理へのリンク 本年度では、リンク先を作成しないため、申し送りとする。	データ連携	-		高	本庁（経企課事務管理班）			
高	○	A	NFM071	収穫復命書入力漏れなどによる造林調整簿の反映漏れについて	跡地検査実施後、更新対象となっているデータを漏れなく把握し、造林調整簿に更新（森林の造成の更新）データを引き継いで、更新対象をもれなく把握したい。	「刷新からの仕様変更No.7 造林調整簿作成に係るデータの流れを明確（履歴データ取込処理において取り込みされるデータの詳細等）にし、是正できる箇所は是正したい」から、収穫復命書入力時に漏れなどが発生すると、造林調整簿に更新情報が適切に反映されない。 収穫復命書入力漏れを検知できるように収穫サブシステムで検討が必要がある。現段階では収穫復命書入力時に対応する方針とし、収穫復命書の入力において、収穫区域＝更新面積（1～4の合計）でないとエラーが出るようにする（現状更新面積欄に何らかの数字が入っていればエラーではない）。 収穫復命書入力時に漏れなどが発生すると、造林調整簿の差分として適切に検出されない。そのため、復命書入力時に収穫区域面積と更新面積の合計値が一致するようなバリデーションチェックを行い、入力漏れの発生が生じないようにする。	データ連携	収穫	造林	必須	本庁（経企課事務管理班）			
高	×	Z	NFM072	同じ内容を何度も入力する必要をなくすようなUI設計	立木評定時の補正率を樹材種別にひとつずつ同じ補正率を繰り返し入力するなどの手間を解消したい。このように同じ値の入力が繰り返される項目について、次期開発の対象となるサブシステムにおいて解消してほしい。	「NFM047_システムに登録済みのデータを複数の画面から参照できるようにし、同じ内容を何度も入力する必要をなくす」について、画面施一計で考慮し効率的な入力を可能とする。	画面設計	-		高	本庁（経企課事務管理班）			
中	○	A	NFM076	NFM003_作業指示と報告をDB項目として紐づけ	NFM003との整理	造林実行簿のCSVデータで、森林調査簿の小班コードを参照したい（GISで活用したいため）。 そのため、造林実行簿のCSVデータに小班コードを付与する（森林調査簿の小班コードが今後変更となる可能性があるため、森林情報管理サブにおいて決定後のコードを付与）		森林情報管理	造林	必須	本庁（経企課事務管理班）			
中	○	A	NFM077	払出情報入力に係る跡地検査年度の入力の見直し	跡地検査完了登録時に表示される項目で売払・払出年度という項目があるが、実際に入力されているデータは、収穫予定簿の収穫年度であり、項目名とデータ内容に齟齬があり、業務上支障でているため	跡地検査完了登録時に表示される項目で売払・払出年度という項目があるが、実際に入力されているデータは、収穫予定簿の収穫年度であり、項目名とデータ内容に齟齬があるところ。項目名を変更するか、項目名を売払・払出年度のまにする場合、当該データが反映されるように変更するべき。 （項目名を変更する場合は、造林サブの造林調整簿における発生更新確認リストの項目名も変更すること）		収穫	造林	必須	工程2-1 UI/UXレビュー			
中	×	Z	NFM078	データモデル(調査・検査(収穫))	実務を反映した合理的なデータモデルにより業務最適化、運用最適化を図りたい 復命書テーブルは約200列の非正規化状態で、未使用項目や旧データ保持項目が多く、他システムへの影響を最小限にしたデータモデリング整理を行う必要があるため。	・注目すべきエンティティがリソースであるかイベントであるか再検討する 「別紙2-2_データモデル」の中では、収穫とその報告、承認というイベントに注目してモデリングを行っている。しかし、それらのイベントに注目すべきか、収穫の対象である伐区に注目すべきかは実際のユースケースをより深く調査した上で決定し、モデリングに反映していくべきである。 ・テーブル構造の正規化を行い、データモデルを最適化する。	データモデル	収穫	立木販売、製品生産、製品販売	高	要件定義1.5版申し送り			

事業者使用欄		【対象工程凡例】A：工程2-2、B：工程2-3、Z：その他、-：対応済															
優先度	実装する (○、×)	対象工程	要求No.	要求内容	理由	説明	分類	現行サブシステム名	関連するサブシステム	優先度	要望の出処	事後確認 票要望No.	引用課題リ ストNo.	備考			
中	○	A	NFM082	基本計画の見直しを森林情報管理システムの全メニュー、画面、帳票に反映させる	基本計画の見直しにより、森林の区分が変更となった。これに伴いシステムの林種の区分、林種の細分、施業方法、施業の細分等も変更となる。 システムで扱う「国有林の地域別の森林計画」「地域管理経営計画」「施業実施計画」の計画事項であるため、既存のプログラム、DB項目等を変更する必要がある。	・画面、帳票、テーブル項目の修正 ・既存の区分名の読み替え、一部区分についてデータのコンバート ・集計プログラム等の再構築 ・バリデーションの変更 ・帳票、OLAPの追加 ・森林調査簿調査簿集計用のACCESSの改修	機能改変	森林情報管理		必須	本庁（経企課事務管理班）						
中	○	A	NFM083	基本計画の見直しを森林情報管理システムの全メニュー、画面、帳票に反映させる	基本計画の見直しにより、森林の区分が変更となった。これに伴いシステムの林種の区分、林種の細分、施業方法、施業の細分等も変更となる。 システムで扱う「国有林の地域別の森林計画」「地域管理経営計画」「施業実施計画」の計画事項であるため、既存のプログラム、DB項目等を変更する必要がある。	・画面、帳票、テーブル項目の修正 ・既存の区分名の読み替え、一部区分についてデータのコンバート ・集計プログラム等の再構築 ・バリデーションの変更 ・帳票、OLAPの追加	機能改変	収獲		必須	本庁（経企課事務管理班）						
必須	○	A	NFM084	帳票、OLAPについて、本庁、各局が配下の全計画区を一括集計可能とする	現行システムではスベックの関係から大量のデータを扱うことができず、本庁では別途計画区、局等の単位で出力したCSV等を集計しているため、業務不可の軽減を図る。	各帳票、OLAPについて、集計単位を可変するとともに、林野庁では全計画区、全局合算した集計結果を出力可能とする。	帳票	森林情報管理		必須	本庁（経企課事務管理班）						
中	○	A	NFM085	林班沿革簿の適正化	林班沿革簿について、記載項目や連携データ設定が不十分なため、使われなくなっているため、適切な仕様とする。	林班沿革簿の項目を見直し、履歴の管理が必要な項目については新たに履歴テーブルを追加して沿革簿として機能させる。 ファイル添付機能を追加し、植栽位置図、小班区画、林道、作業道についてGISデータ、PDF等で地理情報を保持する。	機能修正、追加	森林情報管理		必須	本庁（経企課事務管理班）						
中	×	Z	NFM093	収獲復命書のおけるカタカナ小班の林種の細分の登録 ※林種の細分については見直しあり	収獲復命書情報の登録にあたっては林小班情報を森林情報管理の森林調査簿情報から参照登録しているが、カタカナ小班について森林調査では林種の細分の登録は必須となっていない。 実行総括表の天然別の集計は、復命書の林種の細分に基づき修正することとなっているが、森林調査簿に記載がないため、カタカナ小班分が天然別の集計に反映されない。	森林調査簿の記載事項ではないため参照できず、調査簿とも矛盾するため復命書情報の登録時には必須入力とはならないため、実行総括表の作成にあたっては、職員への聞き取り後に運用事業者により一括登録すると対応しているところ。 払出情報登録時の入力必須項目とするなど、実行と合わせて対応させたい。	機能追加	収獲	森林情報管理	高	本庁（経企課事務管理班）						
中	○	A	NFM094	収獲復命書の複層伐対応	複層伐の収獲量の報告方法（収獲量の復命）が担当者によって異なるため。 皆伐の収獲区域が自動計算となっているため、複層伐に対応していない。	担当者ごとで異なる複層伐の伐採率、伐採面積の入力方法を統一する。10haの林小班に対して50％の伐採を一回として行う場合は、伐採面積（小班全体が伐採対象と認識）10ha伐採率50％として復命書に入力する。併せて、伐採状況を把握する樹材種別一覧表に収獲面積等の情報を掲載する。 単層林の皆伐と複層林の皆伐のロジックを分け、複層伐にも対応させる。 皆伐は現在の調査区域（手入力）から除地（手入力）を引いた面積を収獲区域とするロジックを踏襲。 複層伐は調査区域に小班面積から参照入力し、収獲区域は伐採区域を手入力とする。 また、面的複層林に対応させるため、面的複層林の番号、複層林の管理面積の項目を追加する。	機能追加	収獲		必須	本庁（経企課事務管理班）						
高	○	A	NFM095	立木調査野帳等の取込時のエラー特定	エラー箇所の特定が手間、分かりづらい	復命書の立木調査野帳、樹材種集計表のCSV取込時のエラーがPDF/CSV一覧からエラーをダウンロードして確認しないとエラーを訂正できない。例えば、品質区分のエラーなどは、可能な限り取込前（CSV出力時）にエラーを特定し、修正できるようにしたい。	機能改変	収獲		必須	本庁（経企課事務管理班）課題一覧						
必須	○	A	NFM096	収獲調査復命書の入力について、一度に作成が出来るようにして欲しい。	現在は復命書は個別に入力していく必要があるが、局によっては1林小班に対し樹種毎の復命書を分ける、搬出路数の支障木を分けて復命書作るなどが行われており、同一の林小班情報を繰り返し入力する必要がある。	復命書の作成が職員か、指定調査機関によるかに左右されるが、複数の林小班、復命書を一度に入力できるような仕組みが提供できないか。 復命書を一覧で一括入力する。復命書に紐づける野帳に復命書番号を登録し一括アップロードして作成した一覧を再度ダウンロードし復命書に必要な項目を一括入力する。など実装方法は要検討 但し、指定調査機関の学習コストも踏まえて方針を決定する必要がある。	機能改変	収獲		必須	本庁（経企課事務管理班）課題一覧						
中	×	Z	NFM097	収獲調査復命書の調査結果をエクセル一覧表として出力	収獲調査復命書の調査結果をエクセル一覧表として出力し、GISの他、立木販売、製品資材など次年度の予定資料を作る際を活用したい	復命書情報に森林調査簿の小班検索IDを付加しておき、GISの属性情報に連結させて収獲予定箇所を表示させる。	機能改変	収獲		高	本庁（経企課事務管理班）課題一覧						

事業者使用欄		【対象工程凡例】 A：工程2-2、B：工程2-3、Z：その他、-：対応済												
優先度	実装する (○,×)	対象工程	要求No.	要求内容	理由	説明	分類	現行サブシステム名	関連するサブシステム	優先度	要望の出処	事後確認 票要望No.	引用課題リストNo.	備考
中	×	Z	NFM098	国土保安関係の欄は、制限林等の情報をすべて表示できるように改修。	国土保安関係の欄は、制限林等の情報で林小班情報呼び出して表示するが、この欄に表示されるのが6件の情報までであり、7件以上の制限等がかかっても表示は表示されない。		機能改変	収穫		高	本庁（経企課事務管理班）課題一覧			
中	×	Z	NFM099	収穫調査の野帳情報（csv）を取り込みをした後に修正したい	野帳の情報にミスが発覚した場合、システム上で野帳の情報を変更できない。	但し、野帳の登録削除で、修正はあくまで登録前エクセルで実装することとした方が、製造及び操作がシンプルであれば、システム上修正できることを実装する必要はない。	機能改変	収穫		中	本庁（経企課事務管理班）課題一覧			
必須	○	A	NFM100	収穫予定簿一括入力	指示量を受けて1年間の収穫箇所を登録するが、箇所数が多いので、一括登録したい。	現在は、指示量を受けて箇所付けした収穫予定箇所の一覧表を基に予定簿をつつ、一つ入力しているので、一覧表を直接取り込みたい。または、収穫調査を終え、復命書登録している箇所は復命書一覧から予定簿に必要な項目を転記するなど、方法は要検討	システム化	収穫		必須	本庁（経企課事務管理班）			
中	○	A	NFM101	復命書の収穫位置図等ファイルアップロード機能	収穫位置図等収穫復命書添付資料のうち記録として必要なものをアップロードしたい。	地図情報はGISデータであればGIS上で収穫区域を可視化することができ、公表公告に再利用する、GISやGNSSデータとして事業者には位置情報を共有するなど活用できる。	機能追加	収穫		必須	本庁（経企課事務管理班）			NFM032に含まれるも、収穫特有な話として切り出し。
中	○	A	NFM102	1林小班内で、計画期間に複数回の伐採が行われた場合も調査簿で履歴を管理したい。	調査簿は樹立時点、変更樹立時点で取り置きされるが、計画期間で複数回事業が行われた場合に年度毎の履歴として残せない。	調査簿の修正は局によって5年に1度、毎年など一律でないため、調査簿の小班情報に複数年分の履歴を持つことができるようにする。また、年度更新のタイミングで履歴が小班履歴テーブルに転記されて、林班沿革簿で把握できるようにする。など。	項目追加	森林情報管理		必須	本庁（経企課事務管理班）			
高	○	A	NFM103	収穫実行総括表の項目追加、CSV出力、Excelフォーマットによる取込み	項目が不足していることで、手集計が必要となっているが、伐採方法の区分が多く仕分けし辛い	実行総括表はPDF帳票ではなく、実合用の元データをOLPAで取得しExcelフォーマットにマクロで取り込む仕様にする。これによって、OLAPで別途突合している手間が削減できる。	機能改修	収穫		必須	本庁（経企課事務管理班）			
中	○	A	NFM104	復命書の収穫区分に「樹木料（支障木）」を追加する。	現在、樹木採取権については、復命書の収穫区分「樹木採取権」のみであり、「基礎額／樹木料」と「樹木料（支障木）」の区別ができない。	樹木採取権に関しては収穫区分を「樹木採取権」と「樹木料（支障木）」に分け、評定時の復命書の選択を容易にする。	項目追加	収穫	樹木採取権	必須	本庁（経企課事務管理班）			
中	○	A	NFM105	実行総括表の作成時に本庁と局間の調整の段階で事業実行結果をロックし、変更できないようにする。	毎年度、実行総括表の数字を整理した上で、決裁を取っているが、その際に署等において実行結果の修正が発生し、その修正を特定して決裁に反映することが難しいため。	昨年度の実行結果の修正をさせないロック機能を持たせ、その解除を本庁等の一部のユーザーだけができるようにする。その上で、やむを得ない事情により修正が発生した場合は、その特定のユーザーへ変更箇所を通知の上で、解除を行い修正を反映するような仕組みを検討し実装する。	機能追加	収穫		必須	本庁（経企課事務管理班）			
高	×	Z	NFM106	造林コード体系をCSVで一括登録できるようにする。	現在、造林コード体系の新規登録、修正については、1コードずつ実施しなければならず、同じ項目を一括して修正したい場合にかなりの労力を要するため、CSVで一括登録、修正できた方が効率的なため。	造林コード体系の登録、修正については、現在1コードずつ実施しなければならず、同じ項目の同じ内容を一括して登録・修正したい場合に、かなりの労力が必要である。そのため、造林コード体系リストをCSVで出力し、一括登録、修正後、アップロードできるようにする。	機能追加	造林		高	本庁（経企課事務管理班）			
高	○	A	NFM107	樹木採取区名の登録時の採番について、表示の際は「0」を非表示とする。	採取区番号と名称は樹木採取権に連携し、各画面、帳票で利用するが、帳票出力後に手作業で「0」を削除しているため手間がかかっている。	テーブル定義の桁数は2桁で、1桁の場合は「0」埋めしているところ、表示の際は「0」を除く。	機能追加	森林情報管理		必須	本庁（経企課事務管理班）			
高	×	Z	NFM108	林道の実行簿一覧に追加した支出負担行為決議書の項目について支出管理サブシステム構築時に同項目名の変更があれば実行簿一覧にも反映する。	令和7年度に構築した林道サブシステムで実行簿の一覧画面を追加した。この一覧には支出負担行為決議書の項目を3つ追加しているが、現行システムの項目名で追加しているため、項目名に変更があった場合は連動して変える必要がある。	令和7年度の構築業務で実行簿一覧を追加した。そのうち示道区分、略科目名、金額は支出管理サブシステムのテーブルから参照することとしている。支出管理サブシステム構築時に、項目名が変更された場合は連動して変更する。	機能改変	林道		高	本庁（経企課事務管理班）			支出管理サブシステムで項目名が変更された場合はリリースまでに必須改修となる。+E127・N127
中	○	A	NFM109	分収育林の契約番号に利用している、旧局署名について、新たに用語マスターを作成する。	業務用語マスターが複雑化していることから、旧局署名を切り出すこととなった。そのため、分収育林の契約番号に利用している旧局署名に関するマスターを作成する必要がある。	現行システムの分収造林サブシステムのデータベース上で利用していることから、コード値等について現行踏襲で作成する。	機能追加	分収育林		必須	本庁（経企課事務管理班）			
中	○	A	NFM110	一括修正機能の改善	工程1では、局や署等で共通のExcelマクロ（CSV）を取り回し、局にて森林調査簿の一括修正（CSV取込）を実装予定であるが、Excelの更新時期とシステムへの登録時期がずれることで年度を跨ぐ処理によるデータ不正の懸念が残るため。	森林調査簿承認業務として、工程1で導入するCSVファイルによる一括修正の承認プロセスは残しつつ、工程2として新たに署等がシステムにて森林調査簿を更新し、局にて一括承認するプロセスを設けることになった。その際、今まで局のみが利用のうであった小班ごとの修正機能を署等へも開放し、更新可能とする。ただし、データの更新にあたっては、一時保存用DBを別途設けすることとし、局が管理する最新DBの森林調査簿データに影響が出ないよう分けて運用	森林情報管理		必須	本庁（経企課事務管理班）				

事業者使用欄		【対象工程凡例】 A：工程2-2、B：工程2-3、Z：その他、-：対応済												
優先度	実装する (○、×)	対象工程	要求No.	要求内容	理由	説明	分類	現行サブシステム名	関連するサブシステム	優先度	要望の出処	事後確認票要望No.	引用課題リストNo.	備考
中	○	A	NFM111	新政策に伴い入力項目や入力方法を検討したい。	R5の要件定義以降、新たな政策が進んでおり、以下の新政策においては現行システムで一部実装されておらず、かつ、現行システムでは実装不可能なものが含まれているため。	国庫帰属森林情報は、現行システムの仮登録番号を整理し次期システムへ移行する。併せて帳票やバリデーションを見直す。面的複層林は小班単位で管理し、面的複層林管理簿や新機能を追加し、面積集計ロジックも変更する。加えて、スギ重点情報を森林調査簿（帳票）と林班沿革簿に新設する。		森林情報管理		必須	本庁（経企課事務管理班）			
中	○	A	NFM112	林班沿革簿の項目や様式を見直したい。	現行システムでは林班沿革簿として本来管理すべき項目が不足しており、業務の実態としては紙面の林班沿革簿に手書きして管理しているため。	林班沿革簿に対して添付するファイルをアップロード・ダウンロードできるようにする。また、林班沿革簿情報を入力する画面を新設した上で、履歴情報の備考や観察記録、林況調査結果等の項目を林班沿革簿に追加する。履歴管理が必要なものはテーブル追加する。さらに、施業履歴等の参照データについても不足する情報を追加するとともに、施業内容をわかりやすく表示する。土地情報については、入力文字数40に対して表示されるのが20文字のため、入力と表示の文字数は一致させる。		森林情報管理		必須	本庁（経企課事務管理班）			
高	○	A	NFM113	小班を分割・統合した、あるいは小班名を振り直した場合、造林調整簿入力時に異動前後の小班を確認できるようにしたい。	計画課による小班異動処理が行われた場合、現行システムの造林調整簿入力画面では、小班名が固定表示されているために修正できず、異動後の小班情報を基に造林調整簿を手作業で修正しているため。	造林調整簿入力時に小班に異動があった場合、異動前の小班名とともに、異動後小班名の候補を表示し、異動後小班名を選択できるようにする方針で、詳細な仕様を検討する。また、分割や小班名の振り直しにより候補数が多い場合は、小班名を直接修正することも検討する。		森林情報管理	造林	必須	本庁（経企課事務管理班）			
中	○	A	NFM114	森林調査簿の項目や様式を見直したい。	政策の変化等に伴い、現状の調査簿項目・様式と業務の実態に乖離が生じているため。	新政策やデジタル計測結果等に関する項目を追加し、機能類型の細分等不要な項目を削除する。また、年度別DBおよび樹立時DBについて履歴データを管理し、PDFまたはCSV形式で出力できるようにする。		森林情報管理		必須	本庁（経企課事務管理班）			
中	○	A	NFM115	年度別DB・樹立時DBの履歴管理および各調査簿出力形式	現在調査簿はPDF帳票のみとなっており、必要な情報が得にくい。	各署等のレイヤに小班単位の確認画面を追加 通知様式での出力：PDF、Excelフォーマットを作成しCSV取込み通知様式で表示 任意形式での出力：CSV① （現行の「調査簿」、「樹種別調査簿」、「伐採簿」、「伐採樹種別」、「造林樹種別」を想定） CSV②（上記ファイルのコードをコード値に変換し出力）※新規作成 出力区分：CSV①、CSV②については、署等、計画区、局、全計画区 単位で出力可能とする。		森林情報管理		必須	本庁（経企課事務管理班）			
中	○	A	NFM116	森林情報管理におけるデータモデルを精緻化したい	森林情報サブシステム（森林計画）と各事業サブシステムはデータの更新サイクル、更新の契機、予定、実行の考え方が大きく異なり、同じ概念を持ち込むことはできないため。	現状の森林情報管理のデータモデルをもとに類似エンティティの集約化を検討したが検討期間が短いこと、検証が不十分であることから、現行業務の維持を最優先とし現行踏襲方針とする。		森林情報管理		必須	本庁（経企課事務管理班）			
中	○	A	NFM117	調査簿等情報入力画面において通知と一致していない項目を修正したい。	過去の通知の改正により、分類や項目名称、記載内容が変更されたが、システムでは画面項目が修正されていないため。	現行システムの「調査簿等情報入力機能等」画面において、「公益的機能別施業森林」項目名を「公益的機能別施業森林区分」に変更する。また、「公益的機能別施業森林区分」項目名を「公益的機能別施業森林施業方法」に変更し、業務用語マスタに不足分の名称を追加する。		森林情報管理		必須	本庁（経企課事務管理班）			
中	○	A	NFM118	伐採方法・伐採率の入力方法を見直したい。	現状では間伐の伐採方法を入力できない等の問題点があるため。	現行システムの「調査簿等情報入力ー地位」画面において、主伐の伐採方法（皆伐、漸伐、択伐、複層伐）に応じて伐採率の相関チェックを設ける。また、間伐における伐採方法（定性、定量（列状）、定量（帯状））の入力項目を追加し、伐採方法が定量の場合に調査簿帳票上で伐採率とともに列状間伐か帯状間伐であるかを表示する。		森林情報管理		必須	本庁（経企課事務管理班）			
高	○	A	NFM119	小班単位で画面上で森林情報を確認したい。	現行システムでは局計画課の担当者以外の業務担当者は一覧となったPDFの森林調査簿しか出力できないため。	小班単位の森林調査簿情報を参照する画面を設け、全職員が表示できるようにする。一覧・参照画面は全職員が表示できるようにする。また、森林調査簿情報入力画面は森林計画署の森林計画担当職員が利用できるようにし、現行システムのように複数の子画面に分けず、1画面に収める。		森林情報管理		必須	本庁（経企課事務管理班）			
高	○	A	NFM120	林小班異動時に前回設定した利用開始日を参照したい。	「林小班名の振り直し」画面で林小班名の利用開始日が必須項目になっているが、前回登録した利用開始日より後の日付でなければ入力できず、前回入力した利用開始日がいつか本画面から確認できないため時系列をさかのぼった修正ができないため。	当該画面だけでなく小班異動に関わる画面について、前回設定した利用開始日を表示すれば最低限の対応としてはよいが、将来的には利用開始日の必要性、利用開始日を過去に遡って修正できたり、計画期を跨いだ日付は修正不可とするバリデーションチェックを追加するなど考慮した検討をする必要がある。		森林情報管理		必須	本庁（経企課事務管理班）			

事業者使用欄		【対象工程凡例】 A：工程2-2、B：工程2-3、Z：その他、-：対応済												
優先度	実装する (○,×)	対象工程	要求No.	要求内容	理由	説明	分類	現行サブシステム名	関連するサブシステム	優先度	要望の出処	事後確認 票要望No.	引用課題リ ストNo.	備考
高	○	A	NFM121	調査簿情報入力時に小班履歴情報を参照したい。	北海道局では、小班に対して面積移動等があった場合、その旨を森林調査簿の土地情報として入力しているが、小班の履歴を記載する帳票としては森林調査簿ではなく林班沿革簿が適切であるため。	「調査簿等情報入力」画面で入力する際に小班の履歴情報が表示されれば、入力の担当者としては分かりやすい。		森林情報管理		必須	本庁（経企課事務管理班）			
中	○	A	NFM122	伐採造林計画簿の項目の最新化、及び臨時伐採量を含めた年間伐採量の管理。	現状では臨時伐採量と年間伐採量をシステム内で管理しておらず、紙面の資料でしか確認できていないため。	森林調査簿とは別に、臨時伐採量と年間伐採量を次期システムで管理したい。 伐採造林計画簿に臨時伐採量と年間伐採量を計画単位で入力できれば、本庁としても森林管理局から提出された伐採造林計画簿を集計できるため、臨時伐採量と年間伐採量について森林管理局へ問い合わせる必要が無くなる。		森林情報管理		必須	本庁（経企課事務管理班）			
中	○	A	NFM123	年度別調査簿を参照したい。	年度別調査簿は2007年度から現行システム内で保存されているものの、ユーザーがそのデータを参照できないため。	次期システムでは毎年の森林調査簿情報を何らかの形で管理し、局も参照できるようにしたい。 森林資源量の推移、施業方法毎、機能類型毎の面積の推移等を把握、分析し、今後の森林計画等の参考とする。		森林情報管理		必須	本庁（経企課事務管理班）			
中	○	A	NFM124	基本計画に伴いシステム影響を確認した上で項目を変更したい。	次期基本計画でシステム影響が発生する内容を各所に取り込む必要があるため。	特定の項目体系を見直しており、方針が決定次第、影響調査のうえ、画面、帳票等の項目を見直したい。 ①林種の区分の分類変更に伴うコンバート ②林種の細分の変更に伴うコードの読み替え ③帳票の様式変更、計算ロジックの変更		森林情報管理		必須	本庁（経企課事務管理班）			
中	○	A	NFM125	施業履歴取込処理を改善したい。	現行システムの施業履歴取込処理を業務に合わせて活用したいため。	現行システムの施業履歴取込み処理は踏襲するが、現在利用頻度が低いこともあり、手順を見直す等改善する。		森林情報管理		必須	本庁（経企課事務管理班）			
中	○	A	NFM126	所在地林小班一覧を出力したい。	計画書に必要な固定帳票はシステムから出力したい。	計画書に記載する項目で所在地林小班一覧の帳票をシステムから出力する（14帳票程度）		森林情報管理		必須	本庁（経企課事務管理班）			
中	○	A	NFM127	必要な業務資料を出力したい。	業務資料として必要なデータを取得したい。	計画担当者が業務資料として必要な各種帳票をシステムから出力する（6帳票程度）		森林情報管理		必須	本庁（経企課事務管理班）			
中	○	A	NFM128	収穫の業務フローを最新化したい。	R5年時点の概要業務フローは規約から、詳細業務フローはシステムから書き起こしただけであり、十分な議論ができないままの状態となっているため。	収穫業務の概要業務フローについて、一部実態に即していない箇所（連携サブに樹木採取権がない、払出と登録がない等）の修正を行う。		収穫		必須	本庁（経企課事務管理班）			

事業者使用欄		【対象工程凡例】 A：工程2-2、B：工程2-3、Z：その他、-：対応済														
優先度	実装する (○、×)	対象工程	要求No.	要求内容	理由	説明	分類	現行サブ システム名	関連するサ ブシステム	優先度	要望の出処	事後確認 票要望No.	引用課題リ ストNo.	備考		
中	○	A	NFM129	面的複層林に対してシステム上どのような野帳、復命書とすべきか整理したい。	面的複層林（一定のエリアに含まれる林地をいくつかの伐区を決めて皆伐し、複層林化する）化も進めらる予定であり、小班の概念を超えた団地とした施策に対し、収穫サブシステムでどのような野帳、復命書とすべきか整理をする必要がある。	林小班に面帳番号を付番することで管理する。 また、課題となっていた複層伐の面積をどのように把握するかの考慮が必要であることから、主伐においては、複層伐かその他の伐採方法かによって「調査区域」「収穫除地」「収穫区域」を異なる取扱いとすることを検討。		収穫		必須	本庁（経企課事務管理班）					
中	○	A	NFM130	現在の収穫調査の方法、実態に併せてシステムの要件、特に野帳を整理したい。	収穫調査の方法は、各局の内規に対応しており、収穫調査時に把握する情報が異なるため。	以下のような収穫調査の方法が実態として存在する。システム上不足する調査方法は追加検討する。 ・毎木、標準値 ※代表的な方法 ・指定調査機関による調査 ※現在主流 ・腰用（隣の野帳を参考）、目測（見た目で材積・蓄積を把握）※省力化のため、近年取り入れられて来ている方法		収穫		必須	本庁（経企課事務管理班）					
中	○	A	NFM131	決定樹高を胸高直径のみの野帳に紐付けシステム内で野帳を完成させる。	決定樹高がシステム内で算出されず、担当者が樹高曲線を作図しそれをもとに手入力で決定樹高をシステムに登録しているため。	システムに入力した決定樹高が胸高直径のみで決定樹高の登録がない野帳に紐付けされず、何度も同じ情報を入力する必要があり、職員の負担となっているため改善検討する。		収穫		必須	本庁（経企課事務管理班）					
中	○	A	NFM132	収穫調査復命書データのライフサイクルをデータフローとして整理する必要がある	データフローは作成されておらず、次期システムに向けてデータモデル最適化のため整理をする必要があるため。	次期システムでデータモデルを作成するにあたって収穫のDFDを作成・整理する。		収穫		必須	本庁（経企課事務管理班）					
高	○	A	NFM133	収穫予定簿登録時に伐道簿に計画されていない伐採をすることを回避するため、バリデーションチェック機能の検討が必要。	予定簿を収穫復命書から自動的に作成する場合に、伐道簿に搭載されていない収穫復命書があれば、チェックし、計画に沿った収穫予定簿を作成する必要があるため。	収穫予定簿は、基本的に施業実施計画（伐採造林計画簿）に基づく半年度の計画である。 そのため、伐道簿に登録があるか、計画していない箇所を伐採しようとする場合は、指定外適用項目に何らかの値が入力されているかバリデーションチェックを行う。		収穫		必須	本庁（経企課事務管理班）					
高	○	A	NFM134	収穫予定簿の参照先を見直ししたい。	収穫調査後に、年度別調査簿が変更された場合に、収穫予定簿で参照するデータを復命書からではなく、年度別調査簿を参照するようにしたい。	収穫調査年度と収穫予定年度が異なる場合、復命書の森林情報が最新でない場合がある。その場合は収穫予定簿には年度別調査簿(最新の情報)の情報を参照して予定簿を作成する。		収穫		必須	本庁（経企課事務管理班）					
必須	○	A	NFM135	収穫実行簿作成時に参照した復命書の情報を取得したい。	収穫実行簿と復命書で入力する内容はほとんど共通しているにもかかわらず、収穫実行簿作成時に復命書のデータを再度入力しているため。	収穫実行簿作成時に参照する復命書番号を入力することでその復命書からデータを取得したい。		収穫		必須	本庁（経企課事務管理班）					
中	○	A	NFM136	収穫管理表の使い方や必要性を検討したい。	収穫管理表は伐採造林計画簿に含まれる復命書のデータを取得する画面のように見受けられるが、伐採造林計画簿の作成には直接関係しないと考えられるため。	北海道森林管理局視察で話題に上がった要求		収穫		必須	本庁（経企課事務管理班）					
中	○	A	NFM137	復命書に必要な項目を整理したい。	備考欄に記載して運用している間伐回数、伐採方法、伐採の状態を項目として追加したい。また、現状存在する全内残は使用することがないため削除したい。	北海道森林管理局視察で話題に上がった要求		収穫		必須	本庁（経企課事務管理班）					
中	○	A	NFM138	スギ人工林伐採重点区域として収穫した履歴管理をしたい。	当該林小班がスギ人工林伐採重点区域の対象であれば、この情報を保持し、復命書等収穫の情報を出力するOLAPにおいて対象であることを出力したい。	正規化の程度、パフォーマンスを考慮して、要すれば、OLAP生成時に都度森林情報を参照せず、復命書の情報を保持するテーブルに当該対象、非対象の情報を保持することも検討する。		収穫		必須	本庁（経企課事務管理班）					

事業者使用欄		【対象工程凡例】A：工程2-2、B：工程2-3、Z：その他、-：対応済														
優先度	実装する (○、×)	対象工程	要求No.	要求内容	理由	説明	分類	現行サブシステム名	関連するサブシステム	優先度	要望の出処	事後確認 票要望No.	引用課題リ ストNo.	備考		
中	○	A	NFM139	フレームワーク等ソフトウェアの更新	工程2-1で作成したプログラムの実行環境にかかるspringboot等のフレームワークについて、最新版を適用した場合の影響を調査し、可能な限りサポート期間の長いバージョンを適用する	工程2-1で作成したフレームワーク等のソフトウェアはサポート期限が2026年6月中旬に切れるものがあり、影響を鑑みつつ最新のバージョンを適用したい。		共通		必須	本庁（経企課事務管理班）					
中	×	Z	NFM140	追加するサブシステムに係るマニュアルと工程2-1で作成したマニュアルの調整	工程2-1で実装したサブシステムについて記載した操作マニュアルの内容のうち、工程2-2で実装するサブシステムの操作と連動、関連する箇所について、工程2-1のサブシステムの操作マニュアルを含めて修正したい。	例えば造林サブシステムにおいて、森林情報の小班実行管理機能呼び出すなど連携している箇所があり、工程2-1のマニュアルにも言及する必要があるものは、マニュアルの当該箇所を修正し、総合的に作成する。		共通		中	本庁（経企課事務管理班）					
		B	NFM141	各サブシステムで新たにデータベース化がされたものについては、事業統計書への自動集計の対象とする。	新たにデータベース化された際は、手入力から自動集計に修正が必要。	例えば分収造林や国庫帰属森林など、現在、別途台帳で管理しているものについて、今後データベース化してシステムで管理したいとの希望があるところ。システムに搭載できれば、現在、事業統計書に手入力しているデータについてもシステムからデータを吸い出すことが可能となる。		事業統計		必須	本庁（経企課事務管理班）					
		B	NFM142	各種計画等の見直しを踏まえ、事業統計書のレイアウト及びプログラムの修正を行う。	次期森林・林業基本計画に係る林種区分の見直しが令和8年度に行われることを踏まえ、事業統計書においてもレイアウト及びプログラムの修正を行う必要がある。	次期森林・林業基本計画に係る林種区分の見直しが令和8年度に行われる。令和8年度実績の事業統計書の作成が行われる令和9年作業において、運用事業者においてレイアウト修正（5～6月）及びプログラム修正（7～9月）を行うこととなる。		事業統計		必須	本庁（経企課事務管理班）					
		B	NFM143	システムにてデータの集計及び帳票作成が自動的に行われるようにして欲しい。	職員によるデータの加工、集計、整理を行うことは手間であり、データの誤りが発生しやすくなるため。	現行システムから出力されるデータに基づき、職員によりMS-AccessやExcelVBAを用いてデータの加工、集計、整理を行っているものがあることから、これらの作業・処理を踏まず、直ちに事業統計書データとして作成、集計、帳票出力できるようにしてほしい。		事業統計		必須	本庁（経企課事務管理班）					
		B	NFM144	実行総括表のロック機能をシステム上に実装して欲しい。	職員が実行総括表の確定日を登録することでロック処理を実行できる仕組みとする。	これに伴い、現行運用において事業者が実施している断面データの検証環境へのコピー（ロック機能）は廃止する。		事業統計		必須	本庁（経企課事務管理班）					
		B	NFM145	システムからの抽出データが細かすぎるので、事業統計のデータで抽出して欲しい。	樹種別材積や自然公園等のデータについては、システムからの抽出データをAccessで加工して確認作業を行っている。	（データの抽出方法やAccessでの操作方法を確認し、利用しやすい方法の検討が必要であるが、）確認用にAccessで樹立時DBからSQLコードで出力しているデータが、事業統計用のデータとしてシステムから抽出されるようになれば、確認の手間が省ける。		事業統計		必須	本庁（経企課事務管理班）					
		B	NFM146	自動集計におけるバックデータ（CSV）を選択して欲しい。	事業統計データの検証などのため、集計前のデータ（CSV）はバックデータとして保存しておきたい。	現行システムで集計処理を行っているものについては、集計データとは別に、事業統計データの検証などのため、データとして保持されている集計前のデータをバックデータとして保存し、CSVで出力できるようにしたい。		事業統計		必須	本庁（経企課事務管理班）					
		B	NFM147	保護林と緑の回廊が同じテーブル上にあるので分ける。	本来は分けて管理するものであるのでデータ構成の検討が必要。	データ構成の見直しと、データの抽出方法やAccessでの操作方法を確認。		事業統計		必須	本庁（経企課事務管理班）					
		B	NFM148	レクリエーションの森関係のデータを自動集計して欲しい。	局ごとにシステムから自動集計される局と、されていない（手入力による集計が必要な）局があるため。	レクリエーションの森関係の基本的な情報はデータとしてシステムに格納されており、事業統計の形（ゾーン毎、奥毎など）に添って帳票を作ることが可能と考えられる。 なお、自動入力と手入力の差異が生じていることについては現行運用事業者に要確認。		事業統計		必須	本庁（経企課事務管理班）					
		B	NFM149	7局分の森林管理局事業統計書のレイアウト（Excel、PDF）を自動作成して欲しい。	各局で公表している森林管理局事業統計書の公表形式が統一されていないため。	事業統計書データとして作成、集計、帳票出力された森林管理局事業統計書について、公表版のレイアウト（Excel、PDF）が自動作成されると手間が省ける。		事業統計		必須	本庁（経企課事務管理班）					
		B	NFM150	林野庁HP公表用の本庁版事業統計書のレイアウト（Excel、PDF）を自動作成して欲しい。	7局分の森林管理局事業統計書をExcelVBAで集計した本庁版事業統計書（最終版）について、公表用データとしてレイアウトの修正が必要となっている。	現在、7局分の森林管理局事業統計書を事業者から提供されたExcelVBAにより統合し、本庁版事業統計書（最終版）を作成しているところである。その後、林野庁HP等への公表に当たっては、本庁版（最終版）を公表用にレイアウト修正を行う必要があり、その際は手持ちのExcelVBAで処理を行っており、手間となっていることから、公表用データのレイアウト作成もシステム内で完結して欲しい。		事業統計		高	本庁（経企課事務管理班）					

事業者使用欄		【対象工程凡例】A：工程2-2、B：工程2-3、Z：その他、-：対応済												
優先度	実装する (○,×)	対象工程	要求No.	要求内容	理由	説明	分類	現行サブシステム名	関連するサブシステム	優先度	要望の出処	事後確認票要望No.	引用課題リストNo.	備考
		B	NFM151	e-Stat（政府統計の総合窓口）公表用の本庁版事業統計書のレイアウト（Excel）を自動作成して欲しい。	本庁版事業統計書（林野庁HP公表版）について、e-Stat公表用データ（Excel）としてレイアウトの修正が必要となっている。	本庁版事業統計書（林野庁HP公表版）について、e-Statの公表に当たっては、レイアウトのチェック、修正を行う必要があり、二度手間となっていることから、公表用のレイアウト作成もシステム内で完結して欲しい。 （現行では統計部から提供されるExcelVBAがあり、様式チェックを行い、不備があったものについては手動で修正を行った上で提出している。）		事業統計		中	本庁（経企課事務管理班）			
		B	NFM152	転賃の情報追加	—	転賃の情報を入力できる項目を追加してほしい。転賃を行った日付、転賃先、転賃に関する資料（文書管理システムの文書番号）等の情報を100文字程度を自由に記述できるようにしてほしい		貸付・使用等管理		高				
		B	NFM153	備考欄の文字数追加	—	備考欄の文字数上限を増やしてほしい。現在は、240文字まで入力可能であり、改行はできない認識。		貸付・使用等管理		中				
		B	NFM154	時点集計機能の追加		一覧画面において、時点集計機能を追加してほしい		貸付・使用等管理		低				
		B	NFM155	基準地価格の反映		用途、林小班等の情報を基に算定で使われる基準地価格が自動で反映してほしい		貸付・使用等管理		低				
		B	NFM156	新規貸付時の番号取得		自動採番方式、空き番号検索方式、手入力方式のいずれかを想定。担当者が任意の数字を割り振ることができ、入力負荷が大きくならないようにしてほしい		貸付・使用等管理		中				
		B	NFM157	算定年度の計算		一般貸付は基本は3年間だが、年度途中から始まる場合があり、現行システムではこの場合に対応できておらず、貸付台帳で自動計算される貸付期間（年数等）が誤っているため、修正してほしい		貸付・使用等管理		高				
		B	NFM158	貸付期間の自動計算	新規貸付の貸付料を算定し、登録した後に決裁が遅れ、貸付期間が変更となった場合、当初登録した日数のまま変更できないので、貸付期間（日数）を手計算する必要があるため	貸付期間を自動計算してほしい。計算ミスが生じるので、登録した後に貸付期間を修正した場合でも日数が自動計算されたい。各年次貸付料の日数欄について、貸付期間は任意の基準日を起算日として「365日のうち○日」として自動計算していただきたい。		貸付・使用等管理		必須				
		B	NFM159	面積単位の統一		haに統一する方向で検討を進める。ただし、貸付料算定の評定価格aの欄は算定する地目により「ha/10a/m」のいずれかとすることが通知で決まっているため、この要求の例外とする。		貸付・使用等管理		中				
		B	NFM160	借受入区分の選択肢追加	新規登録は、県、市町村、個人がほとんどのため。	借受入の区分の「その他」を初期設定にしてほしい。また、選択肢として新たに「都道府県」「市町村」「個人」を追加してほしい。現在「その他」となっているデータを一括で修正する必要はない		貸付・使用等管理		高				
		B	NFM161	担当者情報の入力		貸付台帳入力画面に新規カラムを持つ対応とする。担当者等の情報を入力できるようにしてほしい。例えば、担当課、氏名、連絡先、代表役職、契約書等送付先。		貸付・使用等管理		高				
		B	NFM162	無償貸付の算定調査		貸付料算定調査の帳票について、無償貸付でも違約金の計算のため算定調査を作成しているが、無償の場合は年次金額を「無償」と自動的に記載してほしい。その場合、日数などの欄は空欄としてほしい。		貸付・使用等管理		必須				
		B	NFM163	貸付更新時の従前の貸付料		貸付更新作業時の算定画面において、従前の貸付料を自動で（修正可能な状態で）表示されるようにしてほしい。		貸付・使用等管理		必須				
		B	NFM164	返地一覧表の出力	現在、返地した一覧が簡単に出力できないため	貸付管理DB集計指示から出力されるOLAPにおいて、「返地年月日」の列を追加し、返地の一覧を出力できるようにしてほしい。また、現在選択できる「種別」として「全て」「新規貸付のみ」となっているが「返地のみ」を追加してほしい		貸付・使用等管理		高				
		B	NFM165	返地年月日の一覧画面への追加		一覧画面（Ph2の設計思想に則った新規画面の想定）に「返地年月日」のカラムを追加してほしい		貸付・使用等管理		低				
		B	NFM166	該当林小班の法令制限	現在、保安林等の法令制限は自由入力となっており、局署担当者の判断で入力されているものと思料。 このため、本庁で集計や検索を行う際に、文字面が多様化してしまい手数がかかっている。 （例：水源調査保安林・水源保、水かん、保安林（水源）、水源調査保安林等）	台帳登録の際に該当林小班を選択すれば、森林情報に登録されている法令制限を法令の制限欄に表示できるようにしてもらいたい。 ※表示する文字列は、森林調査簿と同様にコードの略語での表示とする。また、同一の法令制限（コード）の場合は、1回のみ表示するようにしてもらいたい。		貸付・使用等管理		高				
		B	NFM167	貸付林野台帳の林小班表示		貸付地の林小班が2つ以上あるものは、帳票として印刷したとき、2箇所に分かれて印字されるので、1箇所にまとめてほしい。		貸付・使用等管理		高				
		B	NFM168	返地処理時の処理遅れ防止	債権が残った状態で返地があった場合の債権の消し忘れのミスを予防するため。	返地に伴う事務処理として、貸付料の納入告知書の発行停止（経理サブで実施）がある。この作業が遅れないように、貸付サブの一覧画面において納入告知書の停止手続きが済んでいるかがわかるカラムを追加し、経理サブで自動で連携できるようにしてほしい		貸付・使用等管理		必須				
		B	NFM169	返地年月日と貸付期間の同時修正		返地年月日が登録されたら確認画面表示の上、自動修正してほしい。貸付期間が変わる事由は、返地又は更新のみ。台帳編集画面で貸付期間を編集できるかは検討する必要がある。		貸付・使用等管理		中				
		B	NFM170	貸付BDへの項目追加		事業統計公表以外に、各事業に対応するため、貸付集計表の作成業務の際に、統計情報出力を行っている。「貸付集計帳票バックデータ一覧」に林班主番・小班主番の情報を含んでいるが、OLAPで出力されるCSVでは林班枝番・小班枝番が出力されず、正確な代表林小班を確認できないため、「貸付集計帳票バックデータ一覧」に代表林小班の林班枝番・小班枝番の列を追加し、出力されるようにしてほしい。		貸付・使用等管理		高				
		B	NFM171	正確な貸付料の集計		貸付物件B（台帳番号1）について、台帳番号1-1で入力内容（貸付期間R4.4.1～R6.3.31、貸付面積0.5ha、貸付料R4年度10,000円、R5年度10,000円）を入力し、台帳番号1-2で入力内容（貸付期間R4.10.1～R6.3.31、貸付面積0.3ha、貸付料R4年度0円、R5年度6,000円）を入力した場合（例として、貸付物件BについてR4.10.1時点で一部返地があったことを想定したもの） 現在は、R5.3末時点の「貸付集計帳票バックデータ一覧」を出力すると、台帳番号1-2のデータが出力されるため、R4貸付料0円、R5貸付料6,000円が出力される。（正しくは、R4貸付料は台帳1-1の10,000円、R5貸付料は台帳1-2の6,000円） 正確な貸付料を集計のチェックができるように、「貸付集計帳票バックデータ一覧」の出力形式を検討してほしい。		貸付・使用等管理		高				

事業者使用欄		【対象工程凡例】 A：工程2-2、B：工程2-3、Z：その他、-：対応済												
優先度	実装する (○,×)	対象工程	要求No.	要求内容	理由	説明	分類	現行サブシステム名	関連するサブシステム	優先度	要望の出処	事後確認票要望No.	引用課題リストNo.	備考
		B	NFM172	台帳作成時の複写参照		貸付台帳を新規登録する際、他の契約を複写参照したい。		貸付・使用等管理		中				
		B	NFM173	「林地」→「山林」		評価地目の「林地」を「山林」にしてほしい。		貸付・使用等管理		低				
		B	NFM174	使用目的(用途)内訳欄と面積内訳の帳票への追加		システム上で入力している、使用目的(用途)内訳欄と面積内訳について、帳票とCSVに追加してほしい		貸付・使用等管理		中				
		B	NFM175	台帳検索を林小班または複数条件で実施		該当林小班は台帳一覧で検索できるようにしてほしい。1つの台帳に20以上の林小班が紐づくユースケースがあるため、一覧での表示は「(林小班名)他」とし、検索条件として該当した林小班名を(検索条件に応じて)表示する。また、「該当用途・相手方・契約区分」等の複数条件を指定した検索を可能とする。また(広範囲の山火事等の場合)、「影響がある複数の林小班をまとめて検索したい」というニーズがある		貸付・使用等管理		高				
		B	NFM176	台帳画面から印刷	現状だと、台帳入力画面から一度印刷ボタンを押したあと、PDF/CSV一覧から実際に印刷するシステムとなっているため、台帳入力画面から印刷を行えば、2度手間を省ける。	台帳詳細の画面から印刷できるようにしてほしい		貸付・使用等管理		中				
		B	NFM177	支出管理の摘要欄の情報を基に分析がしやすいようにしたい。	入力可能文字数が少なく、金額や識別情報を十分に記載できない。刷新側だけ文字数を増やしてもADAMS側制約が残るため効果が限定される。	現状業務認識 摘要欄は財源区分コード4桁とアスタリスクを含む40文字で、実質35文字を利用している。一部の局では分割金額を直接記載せず「1/3」等で識別し、必要に応じて詳細画面で金額を確認している。 改善要望 摘要情報を省略せず、負担割合・金額等を確認しやすい。公表用摘要1-2を活用できる場合は入力領域を分散したい。	支出							
		B	NFM178	契約債権の入力に当たり、コメント及び発生原因等を自動出力し、延滞金利率を自動判別してほしい。	現行のデフォルト値と適用利率が異なる場合に、修正漏れが発生する可能性がある。一方、適用利率は制度改正時期や契約条件により変動するため、単純な自動判定では誤設定となるリスクがある。	現状業務認識 債権発生入力時、担当者が契約内容と歳入科目を確認し、歳入科目コード表を参照して延滞金利率を選択・入力している。主に3%と14.6%を使用し、入力後は局側で確認している。 改善要望 歳入科目等を基に適用候補となる延滞金利率を参照・確認できるようにし、入力誤りの抑制と確認負荷の軽減を図る。最終的な適用判断と入力確定は利用者が行う。完全自動設定ではなく、略科目コード等に応じた候補表示、注意喚起、または参照資料表示による入力補助を検討する。	収入							
		B	NFM179	分割納付状況について、分割回数・年単位など指定すると自動入力できるようにしてほしい。	複数年度分を登録する場合、年度ごとの納入期限を確認して手入力する必要があり、年度末等に入力負荷が発生する(200件程度)。金額や端数処理まで含めた完全自動化は契約差異があるため困難で、最終確認は必要となる。 自動入力の計算規則が債権種別、契約開始日、日割・月割、休日調整等で異なり、経理担当だけでは仕様を確定できない。複数年分の同額入力は手作業が多い。	現状業務認識 複数年度にわたる継続債権では、契約書に定められた年度別金額と納入期限を登録している。金額や端数の処理年次は契約ごとに異なり、端数は最終年度で調整する場合がある。納入期限は年度ごとの休日配置等を考慮した表(履行期限表)を参照し、担当者が入力している。 継続債権は契約期間分の納入期限及び金額を年度ごとに入力する。年度途中開始は年額を基に日割計算となる場合があり、年度更新では同額を複数年分入力する場合がある。 改善要望 開始年度および分割年数等を指定することで、各年度の納入期限候補を自動設定し、期限確認・入力作業を軽減する。年度別金額は契約内容に基づき利用者が入力・確認する。 分割回数・契約期間等から納入期限と金額を自動設定し、必要に応じて手修正できるようにしたい。 案A：カレンダー情報または納入期限マスタを用いて、各年度の納入期限候補を対象画面の納入期限欄へ設定する方式を検討する。一部の署が参照している「履行期限表」の内容と各局の運用差異を確認し、休日補正ルール、起算日、対象債権および手修正可否を整理する。 案B：貸付担当側と分割計算規則、端数処理、納入期限の算定、休日調整、手修正可否を整理した上で自動入力方式を検討する。	収入							
		B	NFM180	ADAMSⅡとAPI通信を行い、ADAMSⅡの情報を刷新システム上で使用できるようにしたい。	ADAMS登録と収入管理システムへの番号反映が別操作となる。件数は多くないが、転記作業が発生する。	現状業務認識 債務者情報をADAMSへ登録した後、ADAMSで採番された番号を担当部署者が収入管理システムへ再入力している。 改善要望 ADAMSで採番された債務者番号を収入管理システムへ自動反映したい。	共有							
		B	NFM181	国有林野の産物販売委託契約書について、債務者が代理人契約する場合にも対応してほしい。	現行システムでは契約書作成時に買受人のみを登録対象としており、代理人契約に対応していないため、代理人が存在する場合は契約書への追記や別途Excelでの契約書作成が必要となっている。代理人契約は高頻度で発生しており、契約書作成や債務者・債権登録時の手作業による業務負荷が発生している。	現状業務認識 産物販売委託契約書の作成・印刷は担当部署等の担当業務であり、一部の局経理担当は契約書を作成・印刷せず、担当者から紙又はPDFで受領して債権発生入力を行う。 改善要望 債務者が代理人契約を行う場合でも、必要な契約情報を登録し契約書出力できるようにしたい。	収入							
		B	NFM182	経費科目の階層等をADAMSⅡに合わせるようにしてほしい。	国有林野情報管理システムとADAMSⅡで経費科目の階層構造や示差区分の取り扱いが一部異なるため、実行総括表や決算資料を作成する際にシステム間の対応付けや変換作業が必要となっている。また、現行システムでは独自の科目体系を維持するための運用負荷や保守負荷が発生していることから、ADAMSⅡとの整合性を高めて業務効率化を図りたい。	現行システムの科目体系はADAMSⅡの科目体系をベースとしているが、負担行為入力時の利便性向上などを目的として独自の階層構造や科目変換の仕組みを持っている。このため、負担行為時の科目と支出決議時の科目が異なり、歳出科目マスタによる変換処理や運用事務業者によるメンテナンスが必要とない。 今後は、ADAMSⅡと可能な限り同一の階層構造へ統一することで、実行総括表や決算資料との整合性向上、科目変換処理の簡素化、運用保守負荷の低減を図る。ただし、国有林野情報管理システム固有の要件により独自階層が必要な場合は、その必要性を整理した上で、ADAMSⅡとの対応関係を分かりやすく管理・参照できる構造とすることを検討する。	共通							

事業者使用欄		【対象工程凡例】 A：工程2-2、B：工程2-3、Z：その他、-：対応済												
優先度	実装する (○、×)	対象工程	要求No.	要求内容	理由	説明	分類	現行サブシステム名	関連するサブシステム	優先度	要望の出処	事後確認票要望No.	引用課題リストNo.	備考
		B	NFM183	契約明細（製品、立木、副産物、樹木採取権）について、収入管理SS構築時に R 7 構築事業サブで登録済の契約明細を参照入力し、契約情報入力画面メニューに追加し実行総括表に反映	販売契約に関する契約明細は各事業サブシステムで入力しているが、収入管理で契約情報や債権情報を登録する際に同じ情報を再入力する運用となる可能性があり、入力負荷や入力内容の不整合が発生する恐れがある。そのため、事業サブシステムで登録した契約明細を収入管理で参照・活用できる仕組みが必要である。	販売契約に関する契約明細は各事業サブシステムで登録し、収入管理ではその契約明細を参照しながら契約情報や契約債権情報を入力できるようにする。これにより、契約情報の重複入力を削減し、契約明細と債権情報の整合性を確保する。 また、収入管理側で契約情報を修正した場合の取り扱いについて整理が必要である。例えば、事業サブシステム側で登録された契約金額を経理担当者が修正した場合、契約明細側のデータにも反映するのか、あるいは収入管理側のみで管理するのかを明確化し、契約明細と契約債権情報の整合性を維持できる仕組みを検討する。	収入							
		B	NFM184	経費明細について、支出管理SS構築に合わせて R 7 構築事業サブの入力画面メニューに追加し実行総括表に反映	負担行為額と経費明細額が不一致でも登録でき、マイナス値も通る。経理で未確認のケースがあり、実行総括表の不一致に関する問い合わせが発生する。	現状業務認識 経費明細は主に事業担当が登録し、経理担当は依頼に応じて額・種を入力する。実行総括表には経費明細の金額が反映される。 改善要望 負担行為額と経費明細額の不一致や不正な値を検知し、正しい入力へ誘導したい。 許容すべき差異パターンを整理したうえで、金額一致チェック、警告又はエラー制御を検討する。No47の設備運用との整合を確認する。	支出							
		B	NFM185	工事等の進捗状況の可視化	国庫からの支出は支払計画に基づいて実施されるが、工事の進捗状況と支払計画との対応を利用者が個別に管理しているため、支払計画への計上漏れが発生する可能性がある。計上漏れは予算執行管理に影響を及ぼすことから、対象案件を適切なタイミングで認識できる仕組みが必要である。	支出管理サブシステムにおいて、工期満了日が近づいた案件を利用者へ通知し、支払計画への計上漏れを防止できるようにする。工期満了日を基準として一定期間前にリマインドを表示し、対象案件の確認および必要な計上作業を促す。	支出		低					運用でカバー可能な内容で利用者からは特段必要との認識がない。
		B	NFM186	国庫債務負担行為の管理について	当年度予算と国庫債務予算を区別した執行状況をシステムで把握しにくく、使い込みリスクがある。本庁から局・署の契約・執行状況が見えず、Excelの更新漏れも生じ得る。	現状業務認識 国庫債務はADAMS上の国庫債務示達を行い、契約後に負担行為示達を実施する。請求書受領日に負担行為登録する運用で、各署・局がExcelの国庫債務負担行為整理簿を作成して管理している。 改善要望 国庫債務の示達額、契約額、使用額、未使用額、支払状況等を一元化し、局内及び本庁から執行状況を確認できるようにしたい。	支出							
		B	NFM187	会計センターのADAMSⅡとのAPI連携により、本庁から局への示達を自動化させる。	本庁が示達した内容が刷新システムに反映されて、その集束内容が局に通知されるまでに時差が発生しているため、局側が示達されたことを認識できずに、作業を開始できない。	現状業務認識 本庁示達後、刷新システムへの反映を待つ局作業を開始しているが示達完了通知がシステム反映からすぐこないため作業開始がすぐにできない。 改善要望 示達連携の迅速化	歳出予算							
		B	NFM188	局から署等への示達処理の省力化	最大15ファイルを1件ずつ同じ手順で取り込んでおり煩雑である 年度当初は少なくとも10、最大15程度のファイルを扱うため、ファイルの出力・名称変更・登録を繰り返す必要がある。登録済み範囲の把握が難しく、登録漏れや重複の確認負荷が高い。	現状業務認識 科目別に利用する示達データがあり複数回取り込み処理を実施している 現行は予算科目単位で示達情報を出し、ファイルごとに名称を付けて保存する。マクロ付きExcelファイルへ取り込み一部の局独自の管理用Excel内容を反映した後、CSVを再作成し、刷新システムへ1ファイル（項）ずつ登録している。 改善要望 複数の示達データを一括して取り込めるようにする。可能であれば、予算科目ごとの個別ファイルではなく、全予算科目を1ファイルで出力・編集・登録できるようにする。	歳出予算							
		B	NFM189	管理区分の見直し	候補が多く選択しづらい。追加・削除の手続きと管理主体が不明確で、不要な管理区分も残りやすい。	現状業務認識 管理区分は局で定めて利用しているが、画面には全局分が表示される。追加時の依頼先が分からず、現状は関係部署で追加・削除できない。 改善要望 自局分への絞り込み・検索を可能にし、局経理担当が管理区分を追加・削除できるようにしたい。	支出							
		B	NFM190	歳出予算一覧表の印刷	歳出予算一覧表は印刷時に全額0円となるため帳票として利用できない。	金額を正しく表示されるように修正する。	歳出予算		低					歳出予算一覧表は利用されていないため、削除しても問題ない旨提起されている。
		B	NFM191	過去の支出負担行為決議書の参照	再入力が発生するため前年・前月データを確認しながら入力している。 類似案件の検索と再入力に手間がかかり、年度依存項目の差分確認も必要。	現状業務認識 毎年同様の支出が発生するため前年度または前月データを参照している。前前年度は見ない。 システム外の経費整理簿等から負担行為番号を探し、過去画面を参照しながら再入力している。 改善要望 前年度・前月データを複写したい キーワードで過去案件を検索し、原則全項目を複写して必要箇所のみ修正したい。日付は新規日付としたい。	支出							
		B	NFM192	支出負担行為決議書表示項目の追加	「検査日」「検査員」「農林水産技術官・事務官」について必要に応じて帳票に手書き（押印）で対応している。 同じ情報を複数帳票へ繰り返し補記している。局ごとに必要項目や出力条件が異なる可能性がある。	現状業務認識 決議書欄外へ手書きしている項目がある 決議書へ検査日、検査職員の肩書・氏名等をゴム印または手書きで記載し、内部裁決用、局送付用の双方に対応している。 改善要望 画面で入力した値を帳票に任意で出力したい。 検査日、検査職員の肩書・氏名等を帳票へ自動印字したい。	支出							
		B	NFM193	支出負担行為決議書への設備、明許繰越の区分の表示	ADAMSが40文字しか入力できないため、工事名等が記載されない場合がある。 記載内容は各局で異なる。 局ごとに記載内容が異なり、文字数拡張時は支払先通知等の後続帳票との整合確認が必要。	現状業務認識 摘要欄には＊や＝をセパレートとして支払科目の内容や工事名などを入力してADAMS側で出力した場合や一覧を出した場合に整理ができるように入力している。 適用欄は40文字以内となるよう名称を短縮して入力している。財源区分等で選択できる情報もある。 改善要望 記載可能情報を増やしたい。 公表摘要欄1， 2 も利用して回避できないか含めて検討する。	支出							

事業者使用欄		【対象工程凡例】 A：工程2-2、B：工程2-3、Z：その他、-：対応済													
優先度	実装する (○,×)	対象工程	要求No.	要求内容	理由	説明	分類	現行サブシステム名	関連するサブシステム	優先度	要望の出処	事後確認票要望No.	引用課題リストNo.	備考	
		B	NFM194	支出負担行為決議書印刷指示画面の改善	離れた番号を選択する場合に何回も画面遷移ボタンを押す必要が多大である。 ページ単位の確認となり、対象件数が多い場合に一覧性が低い。	現状業務認識 印刷対象検索は負担行為番号のみで行い、複数の印刷画面を設定している。 表示件数が少なく、ページをまたいで対象を確認・選択して印刷している。 改善要望 検索条件を増やしたい。 1画面の表示件数を増やしたい。 表示件数を増やし、スクロールで一覧確認できるようにしたい。	支出								
		B	NFM195	支出負担行為決議書に公表用摘要3の揭示	入力有無が確認しづらい。入力箇所がないので摘要3を利用している。 摘要1・2については利用していない。 システム入力済み情報を帳票へ再記載しており、手間と転記誤りの可能性がある。	現状業務認識 摘要3へ公表コードを入力している。摘要1、2は使っていない。 公表適用欄へ8桁または10桁のコードを入力し、決議書にはゴム印・手書き等で補記している。 改善要望 ゴム印手書きしている内容を画面入力したい。 入力した公表適用コードを決議書へ自動印字したい。	支出								
		B	NFM196	支出負担行為決議書入力の修正を明細に反映	支出負担行為決議情報を入力後、間違いがあったため変更した場合、明細入力は別画面のため、反映させるのが大変である。	明細画面と金額が不一致になった場合などにエラーを表示する。明細画面は別画面なのでタブなどで統一的に修正ができるようにする。	支出								
		B	NFM197	支出負担行為決議書修正時の発議日の調整	変更時に発議日が当日日付に置き換えられてしまう。	現状業務認識 修正する場合は発議日に本日の日付が入るため、決議日合わせて修正を行う。 改善要望 元の契約日を維持したい。 変更履歴の保持は不要。	支出								
		B	NFM198	支出負担行為決議書に決裁者を追加	決議書出力後の追記作業が発生する。様式変更の可否や、局・署、国庫債務時の原本帳票の扱いが整理されていない。	現状業務認識 「分任支出負担行為担当官」の文言、決裁者の役職名をゴム印又はPDF加工で追記し、決裁不要欄には斜線を手作業で付している。旧様式の確認欄や約定支払時期欄も局独自で利用している。 改善要望 印刷時に決裁ルート、役職名、「分任」の文言等を指定・記録し、印刷時のオプション項目としたりうえで決議書へ出力したい。 必要に応じて確認欄・約定支払時期欄も追加したい。	支出								
		B	NFM199	支出負担行為決議書に示連区分、国庫債務情報の掲載	決議書だけでは示連区分、国庫債務負担番号、設定年度、事項コード、事項名を確認できず、画面確認が必要である。入力漏れに気付かずADAMS連携後に手戻りとなる場合がある。	現状業務認識 工事等では示連区分や国庫債務情報を入力画面で確認し、国庫債務・明許案件等は決議書へ赤字ゴム印を押して識別している。 改善要望 決議書に当年度・明許・明許登録の示連区分及び国庫債務負担番号、設定年度、事項コード、事項名を表示したい。	支出								
		B	NFM200	支出負担行為決議書入力、明細入力の画面遷移の改善	現行システムでは、支出負担行為決議情報の入力と経費明細入力が別画面・別機能として提供されているため、利用者は決議情報入力後に業務メニューへ戻り、改めて経費管理機能を起動して明細入力を行う必要がある。このため、一連の入力作業における画面遷移が多く、入力負荷や作業効率の低下が発生している。	支出負担行為決議情報入力と経費明細入力を同一画面または関連タブ上で実施できるようにし、一連の入力作業を効率化する。利用者が支出負担行為の登録から経費明細登録まで連続して実施できるようにすることで、業務メニューへの戻り操作や画面切替を削減し、入力作業の負担軽減を図る。	支出								
		B	NFM201	経費整理表に支出負担行為増減の表示	負担行為管理リストは項目名が表示されず目細コード中心で検索しづらい。公表用摘要確認が別CSVとなり、複数帳票の確認が必要である。	現状業務認識 一部の局経理担当は経費整理表を使用せず、負担行為管理リストで変更増減を確認している。公表用摘要確認のため別CSVも出力している。 改善要望 変更増減データが必要時に表示できるようにし、負担行為管理リストで公表用摘要と項目名をまとめて確認したい。	支出								
		B	NFM202	支出負担行為決議明細入力の画面の改善	支出負担行為決議明細入力画面は横スクロールが発生し、全体の項目が確認できない。	情報の表示項目や並びを整理し、横幅が一画面に収まるようにする。	支出								
		B	NFM203	債権の請求先部局情報の追加	専用欄を追加しても納入告知書全体の文字数制限は変わらず、入力欄間の配分調整が増える可能性がある。一方、黒三角で行を区切るUIは分かりにくい。	現状業務認識 請求先の部署名は住所欄に「○○課扱い」等を入力し、黒三角記号で納入告知書の1行目・2行目を区切る運用としている。納入告知書の印字可能文字数内に収めるため、住所・部署名・氏名欄を調整している。 改善要望 現行の柔軟な文字配置は維持しつつ、住所1行目・2行目を画面上で分かりやすく入力できるようにしたい。	収入								
		B	NFM204	債務者情報の自動更新機能の見直し	一つの業務で顧客情報を変更した場合、同じ顧客を利用する別業務へ影響する可能性がある。関連付けを単純に外すと同一人物・法人の重複管理となるため、共通機能として整理が必要である。	現状業務認識 一部の局では管理担当から変更依頼を受け、局経理担当が債務者情報を更新している。他担当による書換え影響は把握していないが、同一顧客が債務者・債権者等の複数属性を持ち、共通の顧客情報を参照する構造となっている。 改善要望 他業務の更新による意図しない変更を防止し、債務者情報を正しく維持できるようにしたい。	収入								
		B	NFM205	債務者情報の変更箇所の表示	現行運用では変更対象を債務者登録票で確認できたため、変更前後の帳票出力に対する必要性は低い。 変更理由・適用時期等がシステムデータとして保持されず、帳票への手書きが必要となる。	現状業務認識 若くは債務者登録票に変更対象項目を記載し、局は記載された項目を変更している。一部の局では変更箇所を改めて帳票へ記載・出力する運用は行っていない。 債務者変更票には変更対象項目のみが表示される。変更理由や適用開始日等は、帳票の適用欄へ手書きして局へ連絡している。 改善要望 適用欄またはコメント欄をシステム入力可能とし、変更理由や適用時期を帳票へ出力したい。	収入								

事業者使用欄		【対象工程凡例】 A：工程2-2、B：工程2-3、Z：その他、-：対応済															
優先度	実装する (○、×)	対象工程	要求No.	要求内容	理由	説明	分類	現行サブシステム名	関連するサブシステム	優先度	要望の出処	事後確認 票要望No.	引用課題リ ストNo.	備考			
		B	NFM206	産物販売委託契約書の改善	所長氏名が印字されない要因、氏名の入力元、帳票利用者及び必要な様式を経理担当では確認できない。	現状業務認識 産物販売委託契約書は担当部署等の担当業務であり、一部の局経理担当は契約書の作成・印刷を行っていない。	収入										
						改善要望 産物販売委託契約書に所長氏名を登録・印字できるようにしたい。											
		B	NFM207	契約及び債権発生通知書のダウンロード ファイル名の改善	ダウンロード時のファイル名だけでは帳票種別及び提出元の書を判別しにくく、保存後の識別・整理に手間がかかる。 ファイル名だけでは帳票種別を判別しにくい。	現状業務認識 複数の書から債権発生通知書等を受領するため、局では提出元を判別しながらファイルを管理している。 契約・債権発生通知書等のダウンロードファイル名は数字列が中心で、利用者が保存先を分けて管理している。	収入										
						改善要望 ファイル名に帳票名と署名を含め、ダウンロード後に内容を開かなくても識別できるようにしたい。 少なくとも債務者登録用、債権発生通知書等の帳票種別が分かるファイル名としたい。											
		B	NFM208	債権発生通知書の金額訂正に係る理由付記	修正版帳票には修正後の値のみが表示されるため、旧帳票と照合しなければ変更前後を把握できない。	現状業務認識 金額変更時は通常の債権発生通知書とは別の変更用帳票を利用し、変更理由・変更内容を入力して帳票へ出力できる認識である。一部の局では当該欄への入力で対応している。 金額等の訂正時は、旧帳票と修正版帳票を併用し、旧帳票の訂正箇所へ二重線等を記載して差分を確認している。	収入										
						改善要望 金額訂正時に、訂正理由及び変更内容を帳票上で確認できるようにしたい。 変更箇所、変更前後の内容および訂正理由を確認できるようにしたい。											
		B	NFM209	ADAMSⅡ連携後の債権番号の変更 手続きの改善	債権者情報を登録する場合、 債権者情報登録（刷新システム）→債権者登録（ADAMS）→債権者情報更新（刷新システム）と作業が発生するため手間がかかる。	ADAMS&API連携し、刷新システムで債権者登録を実施したら、登録画面上でADAMSから戻ってきた債務者番号を表示するようにする。システム上に債務者番号が設定されている債権情報があれば警告を発する。	収入										
		B	NFM210	産物販売契約書の分収権者の表示／ 非表示と入力項目の見直し	現行の契約情報入力画面および契約書では、分収権者や民収分に関する情報を登録・出力できないため、契約書作成時に手作業による追記や補正が発生している。また、契約種別に関わらず「分収造林」「分収育林」「官行造林」の項目が固定表示されることで、実際の契約内容と帳票表示が一致せず、契約書作成時の確認や修正作業の負担となっている。	契約情報入力画面に分収権者、民収分および金額入力理由を登録できる項目を追加し、契約書作成に必要な情報をシステム上で管理できるようにする。これにより、契約書作成時に別途手作業で情報を補充することなく、システム入力のみで契約書を作成できるようにする。 また、契約書に表示する契約区分については、契約内容に応じて「分収造林」「分収育林」「官行造林」を動的に表示し、対象外の区分は項目名を含めて非表示とすることで、契約内容に即した帳票を出力できるようにする。	収入										
		B	NFM211	留意債権の管理	長期にわたる不良債権が発生する際の管理ができていない。	留意債権については一覧で確認できるように、長期の不良債権対応ができるようにする。	収入										
		B	NFM212	継続債権選択時の台帳番号による識別	検索条件が限られ、対象債権の特定に時間を要する場合がある。	現状業務認識 継続債権更新時は更新年月日等から対象を検索し、一致しない場合は契約明細等を確認している。	収入										
						改善要望 台帳番号を検索条件および選択肢の表示項目に追加したい。											
		B	NFM213	債権発生通知書印刷、契約情報確認 の継続債権更新一覧への追加	継続債権の更新業務では対象件数が多く、契約内容の確認や債権発生通知書の出力を行うために別機能へ遷移する必要がある。そのため、継続更新債権一覧から契約情報や帳票を直接参照できず、確認作業や帳票出力に手間が発生している。	継続更新債権一覧表（OLAP）から、契約情報および債権発生通知書を直接参照・出力できるようにする。これにより、継続債権更新時に複数画面を遷移することなく契約内容の確認や帳票出力を行えるようにし、業務効率化を図る。 具体的には、継続更新債権一覧表へ「債権発生通知書印刷」および「契約情報確認（契約書参照）」の機能導線を追加し、対象債権の契約情報・帳票を一覧画面から確認できるようにする。	収入										
		B	NFM214	収入情報取込機能の改善	現行の収納情報取込機能では、分割納付や一部収納などのケースでエラーが発生しやすく、エラー内容の特定や修正に多くの工数を要している。そのため、収納情報取込機能が十分に活用されておらず、収納情報の登録・確認業務の効率化が課題となっている。	収納情報取込機能において、取込結果を著別に一覧表示できるようにするとともに、エラーが発生した場合には対象データおよびエラー箇所を画面上で確認できるようにする。これにより、取込結果の確認やエラー原因の特定を容易にし、修正作業に係る負担を軽減する。	収入										
		B	NFM215	領収済通知一覧表の表示項目の見直し	現行の領収済通知一覧表では、継続債権等の納付が集中する時期に、収納状況の確認や問い合わせ対応に必要な情報を迅速に把握することが難しく、確認作業に時間を要している。また、ADAMSⅡから連携される収納情報の確認導線が十分でなく、利用者の負担となっている。	領収済通知一覧表において、収納情報を効率的に確認できる仕組みを整備する。ADAMSⅡから連携される収納情報を利用者が容易に参照できるようにし、収納状況の確認や問い合わせ対応に要する時間を削減する。	収入										
		B	NFM216	領収済通知一覧票のCSV出力	現行システムでは、領収済通知一覧表および収納状況一覧表の情報を画面上で確認することはできるが、データをCSV形式で出力できないため、利用者が一覧データを加工・集計・分析する際に再入力や手作業による転記が必要となる。今後、一覧機能の利便性が向上した場合に、業務での二次利用や集計作業を効率的に行えるようになる必要がある。	領収済通知一覧表および収納状況一覧表について、表示内容をCSV形式で出力できる機能を追加する。これにより、利用者が一覧データをExcel等で加工・集計しやすく、問い合わせ対応や収納状況の分析、資料作成業務の効率化を図る。	収入										
		B	NFM217	支出負担行為決議入力及び契約債権 入力の参照入力機能の追加	現行の支出負担行為決議入力および契約債権入力では、定期的に発生する同様の取引について毎回同様の情報を手入力する必要がある。そのため、電気料金、水道料金、ガス料金等の継続的な支払いや債権登録において、入力作業の負担が大きくなり、入力ミスの発生する可能性がある。	支出負担行為決議入力画面および契約情報入力画面において、過去に登録した負担行為情報または契約情報を参照し、その内容を新規登録時の初期値としてコピーできるようにする。これにより、定期的に発生する類似案件について、変更箇所のみを修正する運用を可能とし、入力作業の効率化および入力漏れ・入力誤りの低減を図る。	共通										

事業者使用欄		【対象工程凡例】A：工程2-2、B：工程2-3、Z：その他、-：対応済												
優先度	実装する (○、×)	対象工程	要求No.	要求内容	理由	説明	分類	実行サブシ ステム名	関連するサ ブシステム	優先度	要望の出処	事後確認 票要望No.	引用課題リ ストNo.	備考
		B	NFM218	ADAMSⅡと国有林野情報管理シ ステムの債主情報の連携の改善	現行システムでは、ADAMSⅡと国有林野情報管理シ ステムの間で顧客情報、債主情報、債務者情報および 貸付契約情報の管理体系が十分に連携されておらず、 債権情報や契約情報の照合作業を手作業で実施して いる。また、ADAMS番号と国有林野情報管理システ ム内の管理番号との関連が明確ではないため、債権情報 の特定や集計作業に負荷が発生している。さらに、債務 者情報の整理や確認に必要な一覧出力機能が不足し ており、運用管理の効率化が求められている。	ADAMSⅡと国有林野情報管理システム間の情報整合性を向上させるため、債主情報をADAMS番号によって管理できるよう にするとともに、貸付契約等情報とADAMSⅡ上の債権情報を関連付けて参照できるようにする。また、債務者情報一覧を CSV形式で出力可能とし、債務者情報の比較・確認・整理作業を効率化する。 あわせて、顧客情報・債主情報・債務者情報・ADAMS番号の関係を整理し、それぞれの管理主体および連携要否を明確化 する。特に、ADAMS番号を利用した集計・照会業務の実態、貸付契約情報と債権情報の紐付け方法、およびADAMS上で 管理される番号体系との対応関係について整理した上で、情報連携のあり方を検討する。								
		B	NFM219	ADAMSⅡと国有林野情報管理シス テムの債主情報の連携の改善	後続のADAMS登録時にエラーが判明し、氏名・住所等 の修正と再処理が発生する。	現状業務認識 収入管理システムではADAMSで使用できない外字、機種依存文字、小文字等を入力でき、ADAMS取込時にエラーとなる 場合がある。 改善要望 氏名・住所等について、ADAMSで使用できない文字を収入管理システムの入力時点で検知し、登録を抑止または警告した い。								
		B	NFM220	支出負担行為決議明細の林道路線へ の紐づけ	支出管理側と林道側の責任分界、紐付けキー、対象 データが未整理である。	林道業務で必要な支出負担行為情報を林道路線へ紐付けられるようにしたい。								
		B	NFM221	翌償分の支出負担行為の繰り越しに 関する要望	現行では「類・種・記番を未入力にすることで繰越明細を 実行総括表の集計対象外とする」運用となっており、利 用者にとって判別しづらい仕組みとなっている。	繰越対象明細であることを利用者が明確に識別できるようにし、実行総括表への計上有無を利用者が明示的に設定できる仕 組みを設ける。これにより、現行の「類・種・記番の未入力による判定」に依存した運用を解消し、繰越案件の管理性と可読性 を向上させる。				低				未入力であれば対応不要と判断しており、現状それで 問題ないと利用者から指摘がでているため
		B	NFM222	【UI/UXレビュー】製品販売契約明細情 報の手数料を小数点以下の計算を可能 とするか	現行業務では製品販売契約における手数料を率（パー センテージ）で管理・計算する必要があるが、手数料項 目が整数値のみを前提としている場合、実際の利率を正 確に保持・算出できない。そのため、手数料計算の自動 化および精度向上のために、小数点以下を含む利率を 扱えるようにする必要がある。	製品販売契約明細情報における手数料について、小数点以下を含む値を登録および計算できるようにする。手数料は収入管 理サブシステムの委託経費テーブルから取得した利率を基に自動計算することを想定しており、利率管理に必要な精度を確保 する。								
		B	NFM223	【ITレビュー】樹木契約明細新規登 録・収入管理で先に登録する場合は正 で収入管理で登録した番号を呼び出 す必要がある。	双方の登録状況が共有されない場合、契約と明細が紐 付かない、または経理担当が処理対象を認識できない可 能性がある。	現状業務認識 契約明細は事業担当が各事業サブシステムで入力し、局経理は当該明細入力を担当していない。契約情報と明細が別く に新規作成される可能性がある。 改善要望 事業サブシステムで登録された契約明細を収入管理側で認識し、対象契約へ紐付けて処理したい。								
		B	NFM224	製品販売契約明細情報新規登録画面 の官収分の入力方法	ITレビュー時に、製品販売契約明細情報新規登録画 面に対して、以下の指摘を受けた 「官収分は、金額を直接入力するのではなく、割合を入 力して、その割合から金額を算出してください。デフォ ルト値は官収分を100としてください。」	割合入力、金額計算、既定値の妥当性を経理では判断できない。 官収分を割合で入力し、金額を自動算出する要望が提示されているため、官収分入力を整理する必要がある。								
		B	NFM225	NFM065_経費整理表の「類」、「種」 項目を追加してほしい	現行の経費整理表では、「鳥獣被害対策」に係る予算 や、その内訳である「忌避剤」「防護柵」に関する支出を 適切に分類できる項目が不足している。そのため、関連 予算の執行状況や実績を分類・集計する際に管理しづ らく、予算執行状況の把握や分析に支障が生じている。	改善要望 事業担当が必要とする類・種を経費整理表で確認・選択できるようにしたい。								
		B	NFM226	刷新からの仕様変更No.8 経費明細、 また契約明細についても、今年度構築サ ブシステムのメニューに含まれるため、各事 業の要望を検討し、実行総括表の帳票 に実装	経費明細および契約明細は複数の事業サブシステムで 利用されており、各事業サブシステムの要件変更が支出 管理サブシステムおよび収入管理サブシステムと連携する 必要がある。	支出管理サブシステムの経費明細および収入管理サブシステムの契約明細について、各事業サブシステムの要件との関連性を 整理し、必要に応じて経理サブシステム側へ反映する。 対象は以下の明細情報とする。 経費明細 造林 林道 製品生産 契約明細 立木販売 製品販売 樹木採取権 各事業サブシステムにおける明細項目、入力内容、帳票出力要件を確認し、経理サブシステム側で保持・参照・集計する情 報との不整合が発生しないよう要件を整理する。また、要件追加による影響範囲および改修規模を事前に調査し、必要な対 応方針を決定する。								
		B	NFM227	支出負担行為決議明細入力画面の 入力項目（制御項目）の検討および 林道実行簿一覧の表示制御	利用部門ヒアリングだけでは支出管理サブ側に必要な送 債項目・判定条件を確定できない。 利用部門のヒアリングだけでは現状・課題・要望を判断で きない。	現状業務認識 工程2-1では林道実行簿入力時に支出管理サブのデータを受け取る前提で設計・申し送りされている。 改善要望 林道実行簿への二重入力を避けるため、支出管理サブの入力データを林道サブで利用できるようにしたい。								
		B	NFM228	債権発生時に立木販売契約明細の契約 金額等の参照	現行および次期システムでは、販売系サブシステムと収入 管理サブシステムの双方で契約に関する情報を扱うた め、同一契約に対して重複した契約情報が登録される 可能性がある。	収入管理サブシステムの契約情報入力において、販売系サブシステムで登録された契約明細情報を参照できるようにし、既存 契約が存在する場合は当該契約情報を利用して契約登録を行えるようにする。これにより、同一契約に対して重複した契約 データが作成されることを防止する。								

事業者使用欄		【対象工程凡例】 A：工程2-2、B：工程2-3、Z：その他、-：対応済													
優先度	実装する (○、×)	対象工程	要求No.	要求内容	理由	説明	分類	現行サブシステム名	関連するサブシステム	優先度	要望の出処	事後確認票要望No.	引用課題リストNo.	備考	
		B	NFM229	顧客管理マスター一覧の表示導線について	現行の顧客管理マスターは支出管理および収入管理の業務の中で利用される機能であり、共通メニューから直接利用する業務要件がない。表示導線が複数存在すると利用者が遷移先を判断しづらくなるため、業務フローに沿ったアクセス経路へ集約し、画面遷移を明確化する必要がある。	顧客管理マスターへのアクセス経路を見直し、共通サブシステムのメニューからの遷移を廃止する。利用者は支出管理サブシステムまたは収入管理サブシステムの業務画面から顧客管理マスターを利用できるものとし、業務フローに沿った画面遷移を実現する。	共通								
		B	NFM230	複数局で同じ顧客を利用する際、個人情報との観点から絞り込みが必要か	顧客情報は複数局で共通利用される場合がある一方で、個人情報を含む顧客については必要以上に他局から参照できないようにする必要がある。現行では顧客情報の参照範囲に関するルールが明確ではなく、利用者の利便性と個人情報保護の両立に向けて、顧客情報の公開範囲および検索対象範囲を整理する必要がある。	顧客情報について、登録時に参照可能な組織範囲を管理できる仕組みを設け、利用者の所属組織に応じて検索結果を制御できるようにする。これにより、複数局で共通利用する顧客情報は必要な範囲で共有しつつ、特定の局のみで利用する顧客情報や個人情報については参照範囲を限定できるようにする。 また、法人等の広域的に利用される顧客と、特定局のみで取り扱う個人顧客等について、共有範囲の設定ルールおよび運用方針を整理し、利用者が適切に管理できるようにする。	共通								
		B	NFM231	樹木採取権者の事業区分について	顧客情報一覧および顧客情報抽出機能では、事業区分ごとに利用対象を判別しているが、樹木採取権に関する区分が管理対象として定義されていない。そのため、樹木採取権に係る債務者情報を他の事業区分と同様に管理・検索・抽出することができず、事業区分ごとの情報管理に不整合が生じる可能性がある。	債務者テーブルに「事業区分（樹木採取権）」を追加し、樹木採取権に係る債務者情報を他の事業区分（立木販売、製品販売等）と同様に管理できるようにする。これにより、顧客管理マスター一覧および顧客情報抽出機能において、樹木採取権に関連する債務者情報の検索、抽出および管理を実施できるようにする。 また、事業区分による情報抽出や検索条件に樹木採取権を含めることで、事業区分ごとの顧客・債務者管理を統一的なルールで運用できるようにする。	共通								
		B	NFM232	支出負担行為決議書掲載事項の見直し	一般会計に伴い、支出および収入において課税・非課税を区分して管理する必要がなくなったため、課税対応・非課税対応の情報を利用した業務運用が行われていない。一方で、現在も業務用語マスターに課税区分が残存していることで、利用者が不要な情報を参照・入力する可能性があり、運用ルールとの不整合が生じている。	現状業務認識 一部の局では課税対応・非課税対応を使い分けず「共通対応」を局内の標準運用として選択している。課税・非課税の集計は支出負担行為入力では行っていない。 改善要望 課税対応・非課税対応の選択をなくし、共通対応に統一したい。	支出								
		B	NFM233	負担行為決議書の入力の簡素化	画面・帳票間で項目名称が統一されておらず、コード選択時に分かりにくい。	現状業務認識 略科目等は局独自コード表を参照して入力している。前回確認で検索性向上の要望がある。 改善要望 同一概念の項目名称を統一し、検索・選択しやすきたい。	支出								
		B	NFM234	支出負担行為月計表印刷	複数項をまとめて印刷できない	現状業務認識 項をまたいで複数選択して印刷ボタンを押下すると、選択条件が上書きされて単選択になるので毎回変更して印刷している。 改善要望 項をまたいだ一括印刷を希望	支出								ヒアリング時追加
		B	NFM235	示達番号の適用欄表記の統一	同一の示達番号について画面・帳票間で「回」と「号」が混在し、不要な手修正が発生している。	現状業務認識 マクロ付きExcelファイルへ示達CSVデータ取込後、適用欄に「回」が初期表示されるため、局では他帳票の表記に合わせて毎回「号」へ手修正している。 改善要望 示達番号の単位表記を「号」に統一し、手修正を不要とする。	歳出予算								ヒアリング時追加
		B	NFM236	コード選択時の名称表示	コード値のみでは選択内容を確認しづらく、誤選択時の発見が困難である。	現状業務認識 年度区分や業務種別等はコード値で選択しており、画面上でコードに対応する名称が表示されない項目がある。 改善要望 コード選択時に、年度区分名・業務種別名等の対応名称を併記する。	歳出予算								ヒアリング時追加
		B	NFM237	処理モードに応じた入力項目の表示制御	使用しない項目や実質固定の選択肢が多く、今回入力すべき項目を判断しにくい。	現状業務認識 通常負担、負担増減、部分払い等の区別にかかわらず、多数の項目が同一画面に表示される。 改善要望 処理モードに応じて必要項目のみ表示し、入力不要な欄は出さないようにほしい。	支出								ヒアリング時追加
		B	NFM238	Excel入力表からのデータ取込	二重入力が発生する一方、入力表は確認・ダブルチェック資料としても機能している。	現状業務認識 事業担当等がExcel入力表を作成し、経理担当が内容をシステムへ再入力している。 改善要望 入力表をアップロードし、支出負担行為情報を生成したい。	支出								ヒアリング時追加
		B	NFM239	適用条項がない場合の空欄許容	形式的な操作であり、ルールを知らない利用者にはエラー原因が分かりにくい。	現状業務認識 該当情報がない場合も空欄ではエラーとなるため、全角スペース1文字を入力している。 改善要望 適用条項が不要な処理では入力しなくてもエラーにならないようにしたい。	支出								ヒアリング時追加
		B	NFM240	債主名称検索の表記揺れ対応	スペースの有無や表記差に強く依存し、類似名称・部分一致で候補を探しにくい。	現状業務認識 名称中の全角スペース有無によって検索結果が変わり、正確な登録表記を知らないと検索できない場合がある。 改善要望 全角・半角スペースを同一視し、部分一致や表記揺れを考慮して候補表示したい。	支出								ヒアリング時追加